

官令全報

第壹號

030896-001-2

CZ-4-020

官令全報

弘令社

M9-16

BBC-0142



2428

特 30
195

明治九年八月三十一日刊行

官令全報

第壹號

東京神田區神田五軒町七番地

弘令社發兌

18
4
028

例言

- 一本篇ハ官省使局及ヒ東京府等ノ告達亦官廳ノ伺指令ニ至ル迄尙クモ官民日常ニ要スル處ノ公文ハ遺漏ナリ是ヲ掲載スルヲ以テ專務トス
- 一編輯ノ業已ニ整備スルヲ以テ去ル明治十年九月即チ全報第十四號ヨリ(全報第壹號發兌以前ニ係ル)舊法令ヲ每号卷尾ニ編入シ逐次刊行數年ヲ出ズシテ遂ニ明治元年ノ公達ニ溯ラントス
- 一夫レ如是目的タルヲ以テ從前ノ法令中加除更正等ニ係ル者ハ其變更ヲ示シ加フルニ舊令ヲ參考スベキ者アレバ之ヲ條下ニ於テ一々撮録シ又或ハ何號參觀ノ言ヲ以テス故ニ新舊ノ比較ヲ當ニ得ル而已ナラズ其沿革モ亦隨テ一覽ノ下ニ徵スルヲ得ベシ
- 一内務司法兩省ノ指令ハ明治九年全報本號ヨリ之レヲ登記シ明治十一年六月、日誌、指令錄、休刊ノ日ニ至ルマテノ分ハ詳悉之ヲ掲載シ

其休刊後ニ得ル所ノ同指令ハ每号之ヲ雜報欄内ニ撮録ス
 一編纂ハ月末ニ至ツテ之ヲ整理ス故ニ其月内ニ出ヅル公布ト雖モ既
 ニ製本ノ期ニ及ハザル者ハ翌月ニ讓ルヘシ但シ本篇ハ毎月一號ヲ
 發兌スルヲ以テ定數トス

官令全報第壹號目錄

明治九年
八月

弘令社發兌

〔太政官〕 御布告

- 第一百五號 米商會所條例ノ事 一
- 第一百六號 國立銀行條例改正 十三
- 第一百七號 證人等旅費支給方規則中増補ノ事 十五
- 第一百八號 金祿公債証書發行條例 廿一
- 第一百九號 金祿公債証書々々入質入賣買約定禁止ノ事 廿七
- 第一百十號 內國製造ノ洋紙及ヒ土産當分ノ內無稅輸出ヲ許スノ事 卅五
- 第一百十一號 佛國巴里府大博覽會ヘ內國入出品ヲ許スノ事 九十四
- 第一百十二號 筑摩縣始十四縣廢合管轄替ノ事 百五
- 番 外 本年七月第百號布告文中正誤 二十八
- 番 外 本年八月一日第百五號米商會所條例中正誤ノ事 九十九

〔內務省〕 御布達

- 甲第二十九號 米商會所成規ノ事 四十五
- 甲第三十號 版權免許濟ノ藏版持轉並賣買屆書雛形ノ事 三十六
- 甲第三十一號 第壹回內國勸業博覽會規則ノ事 八十三
- 甲第三十二號 京都司藥場ヲ廢シ更ニ橫濱長崎ニ港ヘ司藥場設置ノ事 八十
- 乙第九十一號 內國勸業博覽會出品ノ事務擔當官ヲ定ルノ事 十五
- 乙第九十二號 巡查懲罰例改正 三十七
- 乙第九十三號 本省中授產局設置ノ事 三十九
- 乙第九十四號 疫牛處分假條例更正增加中第九條但書增補ノ事 百三
- 乙第九十五號 解職巡查ノ被服屬具等還納賣却代價遣拂方 九十九
- 乙第九十六號 (全報第貳號十五葉ニ載ス) 遺失物取扱規則中官沒ノ物品公賣代價納付并届出方ノ件 百十

〔大藏省〕 御布達

- 甲第十六號 福岡縣平民山城平五郎所持公債證書紛失取引禁止ノ事 三十八
- 甲第十七號 栗田順藏所持ノ公債證書紛失ニ付同上 九十四
- 乙第六十九號 額外常費申請區分准據請取方ノ事 三十一
- 乙第七十號 酒類稅決算表取調日限ノ事 七十九
- 乙第七十一號 八年第卅六号及第百四十二号公達中改正(租稅收入計算表) 七十九
- 乙第七十二號 靜岡縣貢米回漕船ノ内漂流ニ付心得方 九十三
- 乙第七十三號 銀行爲換方等へ預ケ金及貸下金ニ對スル抵當品證書ノ事 九十六
- 乙第七十四號 新舊銅貨預リ證書ヲ以收納取計方ノ事 百

〔文部省〕 報告

- 報告第卅八號 藏版ノ圖書翻刻ノ者ハ表題ニ翻刻ノ文字ヲ記スヘキノ事 三十四
- 同卅九號 東京女子師範學校ニ於テ生徒二十名入學ヲ許スノ事 九十三

〔教部省〕 御達

甲 第六號 各神官他管内へ罷越候節日數ニ應シ經伺區分ノ事 百六

乙 第十一號 一寺住職者試補差免ノ節處分方ノ事 四十二

〔工部省〕 御布達

第拾四號 福島ヨリ米澤迄電線架設落成ニ付電信表中増補 十六

〔司法省〕 御達

達第六十三號 地所建屋書入質入証書捺印方ノ事 九十七

〔開拓使〕 御布達

甲 第一號 渡島國津經郡福山舊城跡へ新ニ街衢ヲ設ルノ事 四十二

甲 第二號 根室國根室へ同上 四十三

〔警視廳〕 御布達

甲 第二號 懲治監入出願手續自今懲役署へ出願ノ事 二十九

〔東京府〕 御布達

甲 第三號 盜難訴書ニ品目明記貳通可差出ノ事 八十

乙 第八號 引手茶屋新規開業開届ケラレザルノ件 二十九

乙 第九號 娼妓ト貸座敷主ト契約書調印ノ儀ニ付達 三十五

乙 第十號 娼妓契約書檢閱出願ノ節寫一通可差出ノ令 三十五

乙 第十一號 娼妓ト貸座敷主ト結約書取消届ノ儀ニ付達 四十三

乙 第十二號 本年六月東京府甲第五十五号布達ノ儀ニ付達 百二

乙 第十三號 引手茶屋渡世讓渡ノ儀被差許 百十三

甲 第七十四號 諸出版物内務省へ納本ノ儀ニ付達 二十九

甲 第七十五號 版權所有ノ書目ハ區長へ下渡シ置ルノ件 二十九

甲 第七十七號 病死體患部解剖出願ノ義ニ付達 三十

甲 第七十八號 獸醫學生徒募集延期 四十四

- 甲第七十九號 平民改印届ノ儀ハ自今區務所へ可届出ノ令 四十四
- 甲第八十二號 商法講習所學則改正相成有志ノ者ハ試験ノ上入學ヲ許サル 百三
- 甲第八十七號 深川平野町病院第二假分局開院 百十一
- 乙第四十七號 未痘兒差出方ノ儀ニ付達 十四
- 乙第四十九號 靜岡縣ヨリ同縣士族府下寄留ノ現籍調査方云々依頼ニ付達 九十四
- 乙第五十號 明治十年徵兵取調ノ事 九十五
- 丙第三十四號 地租改正調ニ付地主總代評價人等撰舉ノ事 四十四

勸業寮

錄事

- 禾花媒助法ノ事 十七
- 堺和歌山ノ兩縣管内疫牛斃死廣告 三十
- 福島岡山ノ兩縣管内疫牛撲殺ノ廣告 二十七

同指令

- 司法省ヨリ明治八年第五百五十三号御布告ノ儀ニ付太政官へ伺 百六
- 置賜縣ヨリ婦女子相續ノ儀ニ付内務省へ伺 三十九
- 宮城縣ヨリ消防費ノ儀ニ付内務省へ伺 四十
- 山形縣ヨリ警察官吏制服着用并帶刀ノ儀ニ付内務省へ伺 四十一
- 霞賜縣ヨリ郵便規則第二十條ノ儀ニ付内務省へ伺 九十二
- 大坂府ヨリ英人ノ危險ヲ冒シ御國人ヲ救助セシ故ヲ以賞與ノ儀内務省へ伺 百八
- 東京府ヨリ社寺上地跡處分御規則中處分致兼ノ件々内務省へ伺 百十一
- 埼玉縣ヨリ田地讓與ノ儀ニ付司法省へ伺 十三
- 福島縣ヨリ郵便函中投入紙幣ノ儀ニ付司法省へ伺 四十二
- 東京裁判所檢事局ヨリ姦部民妻居嬰犯姦等ノ罪犯糺治ノ件司法省へ伺 百
- 東京上等裁判所ヨリ昨八年達第三十七号御達ノ儀ニ付司法省へ伺 百四
- 名東縣ヨリ處刑人宿下ノ儀ニ付司法省へ伺 百二

兵庫裁判所ヨリ英國商人訴出候件ニ付司法省へ伺

百九

愛媛縣ヨリ已決未決ノ罪囚重病ニ罹リ全治無覺束者ノ儀ニ付司法省へ伺

百十四

飾磨縣ヨリ改正居喪犯姦律ノ儀ニ付司法省へ伺

百十四

目錄

官令全報

第壹號

明治九年八月

弘令社發兌

〔第一百五號〕

從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣買相場取引致度者ハ會社規則取調可願出旨明治七年(十二月)第三百三拾八號ヲ以テ布告候處今般更ニ米商會所條則別冊ノ通り相定候條營業致度者ハ右ニ照準可願出此旨布告候事

明治九年八月一日

太政大臣三條實美

第一條 緒言

第一節 米商會所ハ米穀流通ノ爲メ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ナリ而シテ協同結社之ヲ創立セントスル者ハ内務卿ノ免許ヲ請フベシ

第二節 内務卿ハ地方ノ景狀ヲ察シ之ヲ創立スルノ緊要ナルヤヲ考定シ之ヲ許可スルト否トノ權ヲ有ス

第三節 米商會所營業ハ五ケ年ヲ以テ一期ト定ム右滿期ノ際猶之ヲ保續セント望ム者

更ニ其趣ヲ申立テ内務卿ノ免許ヲ請フヘシ

第二條 會所創立ノ手續

第一節 米商會所ヲ創立スルニハ發起人十人以上ニシテ資本金ノ總額三萬圓以上爲ヘシ

第二節 資本金ハ百圓ヲ以テ一株ト定メ發起人總員ニテ必ズ資本金ノ總高ノ半額以上ニ當ル株數ヲ所持スベシ

第三節 會所ノ發起人ハ創立願書ニ此會所ヲ創立セントスル地方ノ從來米穀聚散ノ實況及ヒ將來賣買ノ目的ヲ詳悉シ各記名調印シ區戸長ノ興書ヲ得會所創立證書及定款申合規則等ヲ添ヘ之ヲ地方官廳ヘ差出スベシ

第四節 地方官廳ニ於テハ願人共ノ身元行狀ヲ檢知シ且其目的ノ利害障礙ノ有無ヲ識別シ又會所等ノ設ケアル地方ニ於テハ其集議ヲ取り併セテ之ヲ參酌シ相當ト思量スルトキハ意見書ヲ添ヘ内務卿ヘ具申スヘシ

第三條 開業ノ手續

第一節 發起人等ニ於テ會所創立ノ許可受ケタル時ハ直チニ其旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シ他ノ株主ヲ募ルヲ得

第二節 發起人ハ其募リニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ爲シ第四條ノ定限ニ從ヒ差向キ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取等ヲ撰任スヘシ

第三節 此ノ頭取肝煎等ハ資本金總高ノ三分二ニ當ル現金或ハ日本政府ノ公債証書此公債証書ハ時々相場ノ昂低ヲ以テ増減スベシト雖モ明治七年大藏省乙第二十八號達ノ價額ヨリ減少スヘカラス預ケ公正ナル預リ証書ヲ乞請ケ其寫ヲ内務卿ニ差出シ開業免狀ヲ請求スヘシ

第四節 會所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シ始テ之ニ從事スルヲ得

第四條 社印ノ用方并印鑑差出方等ノ手續

第一節 開業免狀ヲ得テ其商業ヲ創ントスルニ當リ會所ノ印ヲ刻シ頭取以下諸役員ノ印ト共ニ其印影ヲ一纏メニシテ内務卿ニ差出スヘシ若シ改刻スル者アルキハ其都度

之ヲ差出スヘシ

第二節 會所ノ諸願何屆又ハ諸証書約定書及ヒ往復ノ文書等ニ至ルマテ會所一般ニ關スル事ハ其會所ノ印ヲ捺シ頭取肝煎等之ニ署名加印スヘシ

第五條 役員ノ程限

第一節 會所ノ役員ト稱スル者左ノ如シ

頭取 副頭取 肝煎 以下差配人書記等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ム會所ノ都合ニ任ス

第二節 會所ノ役員タル者ハ該會所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルコトヲ許サズ

第三節 右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ

肝煎ヲ撰舉シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ兼任シテ新舊交代セシムヘシ

第六條 役員ノ職務

第一節 頭取ハ會所ノ事務ヲ總轄シ他ノ役員ヲ指揮シ會所一切ノ責ニ任ス

第二節 頭取ハ肝煎分掌ノ事務ヲ定ムヘシ

第三節 副頭取ハ頭取ヲ助ケテ其事務ヲ共成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルベシ

第四節 肝煎ハ支配人書記等ノ役名ヲ議定シ其者等分掌ノ課程及ヒ俸給ヲ定ム社中差
違ノ事ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ株主ノ衆議ヲ取ラントスル事柄アル時ハ之ヲ招
集スルコトアルヘシ

第五節 肝煎ハ毎月何回ト定メタル會議トナルベシ

第六節 肝煎ハ其同僚中又ハ頭取ニ於テ職任ニ不適當ノ行アルカ又ハ之ヲ怠ル者アル
時ハ臨時委任ヲ定メ次ノ肝煎會議ノ日ニ無名投票ヲ以テ三分ノ二以上ノ説ニ從ヒ之
ヲ退職セシムルコトヲ得

第七條 株主ノ權利制限及ヒ株式讓渡ノ手續

第一節 株主ハ會所ノ本主ニシテ會所資本ノ一部ヲ入金シ其入金高ニ應シタル株券ヲ
所持シ以テ株主相當ノ權利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者ナルガ故ニ時々ノ景況
ニ著目シ金員及ビ出納勘定帳簿ヲ檢閲セント求ムルノ權アリ

第二節 株主ハ肝煎ノ承認ヲ經テ賣買本人又ハ仲買人トナルヲ得其場合ニ於テハ別段証人ヲ要セズト雖モ仲買人タルノ身元金ヲ出サシムルヲ第七條第三節ノ通りタルヘク賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱スベシ

第三節 株主ハ何等ノ事故アルトモ會所解散ノ期ニ至ラザル時間ハ其株金ヲ取戻スヲ得ス

第四節 株主ハ肝煎ノ承認ヲ受タル上ニテ其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入抵當ト爲スヲ得ベシ 但其質入抵當ト爲シタル時間ハ總會議事ノ時發言ノ權ナク又役員ノ撰舉ニ應スルヲ許サズ

第五節 株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓與ヲ爲ス時ハ其實買授受雙方ヨリ連印ノ証書ヲ會所ニ差出スベシ會所ハ此証書ヲ請取リタル時ニ株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ若シ右手續ヲ爲サル間ハ証書賣買授受ノ効ナキ者トス

第八條 仲買人入社ノ手續

第一節 仲買人トスル肝煎ノ承認ヲ經相當ノ身元金ヲ差入レテ自己ノ賣買取引ヲ爲シ又ハ社外人ノ依頼ヲ受ケ仲買人ト爲リ之ニ從事スル者ヲ云フ 但他人ノ依頼ヲ受ケ仲買人ト爲シタルキハ其依頼人ノ姓名住所等ヲ其時々肝煎ニ申告スヘシ

第二節 仲買人爲ラントスル者ハ會所ニ於テ定メタル期日迄ニ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ツベシ此書面ニハ姓名住所及ヒ丁年ナル事米商人タル事等ヲ詳記シテ之ニ調印シ貳名以上証人ノ連印ヲ要ス

第三節 仲買人タルノ身元金ハ少クトモ百圓以上タルヘシ

第四節 仲買人退社セントスルトキハ其旨趣ヲ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ肝煎ハ之ヲ受ケテ十日間之ヲ會所ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認メタル上ニテ其退社ヲ許シ身元金返付シテ証人ノ責任ヲ解シヘシ

第九條 商會所一般ノ手續

第一節 會所ニ於テハ仲買人ノ身元金及ヒ證據金ヲ使用スベカラズ

第二節 會所ハ賣買上ノ差違レヲ解キ違約ノ處分ヲ爲スノ義務アリ

第十條 賣買取引ノ手續

第一節 會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分テ必ス現米金ノ受渡シ
ヲ爲スヘシ 但定期ノ分ト雖モ其期限三ヶ月ヨリ永カル可ラズ

第二節 賣買ヲ約シクルキハ賣買主ノ雙方ヨリ其約定ノ證據金會所ニ預リ置クヘシ此
證據金ハ少シトモ約定代金高十分ノ一宛チ下ルベカラス又此證據金ノ外ニ時々相場
ノ高低ニ依リ追証據金増証據金等ヲ差入レシムルヲ得ヘシ

第三節 賣買約定期日ニ至テハ會所役員立會上現米金ノ受渡ヲ爲シ其取引ヲ終ルベシ

第四節 定期約定期限内ニ甲ヨリ乙ニ賣リシ米ヲ乙ヨリ甲ニ買戻シ又ハ甲ノ乙ヨリ買
ヒシ米ヲ甲ヨリ丙ニ賣ルヲ得ベシ

但最初ニ定メタル期日ニ至テハ必ス現米金ノ取引ヲ爲スベシ

第十二條 手数料并ニ口錢ノ制限

第一節 會所於テ賣買雙方ヨリ收領スベキ手数料ハ賣買金高千分ノ二ニ超ユベカラス

第二節 仲買口錢ハ其頼人トノ示談ニ任スト雖モ會所ニ於テ豫メ其制限ヲ立ルモ妨ケ
ナシトス

第三節 手数料口錢ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關スル者ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受
スルヲ得

第十二條 會所ノ規則

第一節 會所ノ會議ヲ分ツテ肝煎會議ト株主總集會トノ二類トス

第二節 肝煎會議ハ毎月何回ト定メ頭取ヲ以テ議長ト爲ス此會議ニ於テ發言ノ權ハ一
人ニ付一説ト定メ衆說ヲ取リテ其議事ノ可否ヲ決ス若シ可否ノ數相半スル時ハ議長
ノ判決ニ任ス

第三節 右會議ニ當リ出席定員ノ半ニ充ツサルキハ其議事ヲ始ムヘカラス但急遽ノ事

件ニ格別ナリトス

第四節 株主ノ總集會ハ毎年一度又ハ數度例目ヲ定メテ之ヲ開ク此集會ハ頭取肝煎ノ撰舉及ヒ會所營業ノ實況計算ノ得失ヲ議スルヲ生務トス

第五節 株主五分ノ一以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リテハ臨時總集會ヲ開クヲ得

第六節 總集會ニ於テノ發言權利決議ノ方法ハ便宜ニ從テ之ヲ定ムヘシ

第七節 總集會ニ於テノ議長ハ頭取又ハ株主中ヨリ撰舉スルモ妨ケナシ

第十三條 資本金増減ノ手續

第一節 會所ニ於テ資本金高ヲ増減セントスル時ハ總集會ノ決議案ヲ具シ頭取肝煎其次第ヲ詳記シ内務卿ノ指揮ヲ受クヘシ

第二節 右増減ノ許可ヲ得タル上ハ直ニ世上ニ公告シ其増減セシ名前書ヲ取纏メタル上内務卿ニ届出且地方官廳或ハ銀行ニ預ケタル營業保証ノ金額ヲ増減スヘシ

第十四條 損益金計算ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ毎年兩度以上營業ノ總決算ヲ爲シ其内税金并ニ積立金其他一切ノ

社費ヲ引去リ残り損益高ヲ以テ株數ニ割合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ

第二節 右計算表ハ株主ニ分賦ノ日ヨリ十五日内ニ内務省ニ届出且世上ニ公告スヘシ

第十五條 納税ノ手續及ヒ積金ノ規則

第一節 會所ノ税金ハ明治八年(五月)第八十五號布告ニ照準シ前半年分ハ七月中後半
年分ハ翌年一月中之ヲ地方官廳へ上納シ地方官ハ一般ノ收税手續ニ依リ大藏省へ
送達スヘシ

第二節 株主等へ配當スヘキ純益金一ケ年一割即百分ノ一以上ノ利息ニ當ルキハ肝煎ノ衆議ヲ以テ割賦高ノ内幾分ヲ引去リ之ヲ積立テ以テ非常準備金ト爲スヘシ

第十六條 報告ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ株主及ヒ役員仲買人ノ進退又ハ賣買ノ實況等ヲ詳記シ之ヲ内務卿ニ申告スヘシ

第十七條 官員檢査規則

第一節 内務省又ハ地方官廳ヨリ時トシテ官員派出シ會所營業ノ模様其他諸帳簿等ヲ
検査セシムルコトアルヘシ若シ右ニ付疑問等アル時ハ逐一答辨ヲ爲スベシ

第十八條 諸願届其他ノ書類上達ノ定規

第一節 會所ヨリ諸願届其他ノ書類及ヒ報告書共内務卿ヘ差出サントスルコトハ都テ正
副三通タルヘシ其正副トモ必ス捺印シテ地方官廳ヲ經由スヘシ

第十九條 罰則

第一節 會所ノ役員及株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲買人ノ條例
ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背犯セシメタル實証アルキハ役員并ニ本人トモ其輕
重ニ依リ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ科スベシ

第二節 官員検査ノ節簿冊書類ヲ差出ストテ拒ミ又ハ疑問ニ答辨ヲ爲ササル者アルキ
ハ頭取又ハ其主任者ヘ五十圓以下ノ罰金ヲ科スベシ

第三節 會所限リ違約人ヲ處分シ過怠等ヲ申付クルハ除名或ハ株金身元金ノ高ニ越ユ

ヘカラス

右ノ通制定候事

大〔第一百六號〕

明治五年(十一月)第三百四拾九號布告國立銀行條例ノ儀詮議ノ次第有之別冊ノ通改正
致シ舊條例ハ自今相廢シ候條新ニ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ勿論從來舊條例ヲ遵
奉シテ創立シタル者ト雖ヒ右改定條例ニ準據シ大藏省ヘ出願ノ上其免許ヲ受ケ候様可
致此旨布告候事 (別冊略ス)

明治九年八月一日

太政大臣三條實美

司〔埼玉裁判所ヨリ司法省ヘ伺〕 九年三月十五日

第一條 甲所有ノ田地ヲ乙ニ沽ル諭ヘハ田五反ヲ代價百圓ニ定メ甲乙連印シテ地券書
替出未ク券帖渡ラザル内百五拾圓ニ賣與シタルヲ發覺ス因テ之ヲ審問スルニ其五
拾圓ハ乙ヨリ甲ノ窮乏ヲ憫ミ主意金ト名目シテ贈リタル旨申立ル斯ノ如キハ無罪ニ

歸スルヤ或ハ各不應爲輕重ニ問ヒ聽贖シ更ニ改正シテ地券書替願ハセ可申哉

第二條 前條ノ如キ不應爲ニ問フキハ戶長情ヲ知ラズ違式ニ科シ知ラザル者ハ坐セズシテ可然哉相伺候也

〔指令〕五月一日

第一條 甲ノ窮乏ヲ憫ミ別ニ金ヲ贈ルコト明白ナルニ於テハ罪ノ問フベキナシ又地券ヲ書替ルニ及ハス

第二條 前條指令ニ依テ心得ベシ

〔乙第四十七號〕

區 戶 長

牛痘種繼所へ未痘見差山方ノ議先般中ヨリ追々相達候趣モ有之處近來怠慢之者有之哉ニ相聞且ハ自今諸方天然痘流行モ有之際接種方等關係テハ不都合ニ候條自今區割定員ノ内不參減員無之様懇篤諭達取計精々注意可致此旨相達候事

明治九年八月二日

東京府權知事楠本正隆

〔第六百七號〕

本年五月第六拾三號布告證人等旅費支給方規則第二項但書左ノ通増補候條此旨布候告事

明治九年八月三日

太政大臣三條實美

一該廳ヨリ片道云々

但片道貳里以上滿五里迄ノ地ヲ一日間ニ往來スルキ日當ハ一日分ノ外給セズ尤貳

里未滿ノ地ヨリ呼出セシモノハ辨當料金貳錢五厘ヲ給ス

〔乙第九十一號〕

府 藩 縣

内國勸業博覽會之儀ハ内地一般農工商諸業ヲ勸奨シ將來各地ノ物産ヲシテ繁殖隆盛ナラシムルノ旨意ニ付各管内出品之儀ニ付テハ最モ注意勵精從事可致ハ勿論之儀ニ候條夙官ノ内該事務擔當ヲ命シ諸般注意可爲致此旨相達候事

明治九年八月四日

内務卿大久保利通

〔第十四號〕

福島縣下福島電信局ヨリ置賜縣下米澤ヲ經テ山形縣下山形ノ電線即今米澤マテ架設落成ニ付同所ヘ分局設置來ル八月十五日ヨリ爲試通信取扱候間明治八年三月當省第五號布達電信表(東京以北)和横文共左ノ通追加候條此旨布達候事

明治九年八月四日

工部卿伊藤博文

電信表中音信料追加 和文

一米澤局ヨリ隣局福島及ヒ山形ヘハ一音信料金七錢ヲ拂フベシ

一東京其外各局ヨリ米澤局ヘノ音信料ハ福島局ヘノ賃金ニ貳錢ヲ加ヘ山形局迄ハ四錢

ヲ加フベシ

横文

一米澤局ヨリ隣局福島及ヒ山形ヘハ一音信料金貳拾五錢ヲ拂ヒ山形局ヨリ福島局ヘハ

金五拾錢ヲ拂フベシ

一福島以南東京ヨリ米澤局ヘノ音信料ハ仙臺局ト同シ山形局ヘハ一關局ト同シ福島以

北ヨリ米澤局ヘハ白川局ト同シ山形局ヘハ宇都宮局ト同様ナリ

勸業寮 錄事

先般澳人「ホーイブラン」氏カ禾花煤助法等ニ付キ當寮ヨリ歐洲各國現行ノ景況ヲ質問

ニ及ヒシニ其報未ダ到ラザルニ際シ佛國試驗說ヲ獲テ本年三月之ヲ各地方ニ報告セリ

然ルニ今回佛國ヨリ左ノ報答ヲ得タリ因テ之ヲ左ニ掲載ス

明治九年八月

勸業寮

佛國在留臨時代理公使中野健明書牘

華墨接到津田氏譯文填國ホーイブラン氏發明農業三事著書云々佛國ニ於テ實地ニ施行候哉否並ニ農學士ヘモ質問候様御依頼承知仕候早速各地ノ農家ヘ聞合候得共同傳法ニ習ヒ耕作イダシ候者無之依農學士ヘルラア農學校長官及ヒハルドイ草木培養學校長此二氏ヘ右ノ事件質問候處其事曾テ聞及ヒ候ノミコテ佛國ニテ實地其傳法ヲ施行候事無之由且ホーイブラン氏ナル者ハ三世ナボレナン帝ノ時代ニ當國ヘ來リ自ラ發明スル農業三事

人問曰有益乎云云續々進言云向帝奇想餘其法ヲ試驗スルニ農學博士下命遂ニ其
 亦試驗上更有益ヲ見ルニテ勅トイフテ氏モ望氣失テ佛國ヲ出テ其乃其
 時試驗書寫及局長此傳法於其更有益アルハ無之旨之證書ヲ贈
 言候問其亦一同差贈リ候付御膳者可被成半去農業三事説ノ内樹林ノ優曲ヲ生氣去
 平均法匠董米培養又法因數百年來佛國ニ其地施行シ居候越々位素ニ其利ヲ示
 ノ氏ノ新發明爲テ新發明顯然ニ可存之候存農學三事取調概略及御答候也

西曆一千八百七十六年

臨時代理 中野健明

勸業權頭河瀬秀治殿
 其西曆一千八百七十六年四月廿六日德々其本立三月廿日之谷殿式ニ時告セ
 其時人ニ皇帝陛下ニ奏スル文書其概略ヲ陛下ノ叙覽ニ供ヘン候ス
 客歲皇帝陛下ノ穀類煤助ニ付ホーイラン氏ノ發見シタル方法ヲ千八百六十五年ニ於
 テ更ニ施米穀類ヲ許シ賜記リ同ニ山田氏ノ字號實試ニ同類ナリ

試驗掛ハホーイラン氏ノ煤助法ノ結果ヲ經驗スルコトヲ專任セテ以テ而テ新法施シタ
 ル試驗ニツキ其情況ハ書ヲ出シタリ今其概略ヲ陛下ノ叙覽ニ供ヘン候ス
 小麥ニ施シタル十七ヶノ試驗ニ於テ四ヶハ煤助ノ効驗ナシ而テ三ヶハ出來高ハ殆
 ト都テ同一ナリ而シテ七ヶハ煤助ヲ施シタル部ニ効驗アリテ百ニ三ト二分ノ一ニ過ギ
 ザル所ノ益ヲ顯セリ

唯三ヶノ試驗ノ煤助ヲ施シタル部ニ効驗アリテ出來高ヲ増シタリ其増加シタル高ハ
 百ニ六ヨリ十二ト二分ノ一ノ差アリ
 裸麥ニ施シタル試驗ニ於テハ其結果ハ相對セリ但シ惣數六ヶノ經驗ニ三ヶハホーイ
 ラン氏ノ方法ノ通りニ行ハレ而シテ他ノ三ヶハ同氏ノ方法ニ違ヒタリ
 大麥ニ至テハ四ヶノ經驗ニ二ヶハ一様ナル出來方ナリ而シテ第三ヶハ煤助ヲ施シタル
 部ニ効驗アリ而シテ第四ハ煤助ヲ施シタル効驗ナシ
 燕麥ハ全ク煤助法ノ効驗ヲ示ス其結果ヲ爲セ然レドモ試驗掛ハ去歲ノ結果ヲ全ク相

反シタルガ故ニ此結果ハホーイプラン氏ノ方法ヲ施シタルニ由テ生シタルヤ否ヲ疑
 ナリ然レバ此方法ハ益有ト視認ス可カラズ如何トナラバ若シ總高ニ於テ少量ノ穀并ニ少
 量ノ莖ヲ收得スルキハ藁一千「キロクラム」一「キロクラム」ハ凡我二百六 毎ニ穀ノ最モ
 多量ヲ得ルコトハ耕者ノ爲メニ要求スベカラザレバナリ
 試験掛ガ考慮スルニ穀類人造煤助ニ拘ル所ノ事ニ於テコダエル、ホーイプラン氏ノ約
 束ヲ實地ニ行ハンコトハ廢棄スベキナリ而シテ試験掛ハ猶葡萄樹ノ培養並ニ其他果樹培
 養ニ拘ハル經驗ヲ行ハントス

農商兼工部省
 農學局第二課

巴里一千八百七十六年四月十九日

一千八百六十六年四月十六日ホーイプラン氏達見シタル煤助法ノ實効ナキコトヲ証スル
 書ヲ皇帝陛下ニ獻奉スルヨリ以來法蘭西政府ニ於テハ此試験ヲ再ヒ興スベキ利益アル
 コトヲ信セズ而シテ又故ニ煤助法ノ新功用ハ絶テ識ルコトナシ今日日本政府ノ需ニ應スルニ

此言ヲ以テス

農務寮頭ボルレー

〔第一百八號〕

家祿賞典祿ノ儀永世一代或ハ年限等ヲ以テ給與有之候處其制限ヲ改メ來明治十年ヨリ
 別紙條例之通公債証書ヲ以テ一時ニ下賜候條此旨布告候事

明治九年八月五日

太政大臣三條實美

金祿公債証書發行條例

第一條 華士族及ヒ平民トモ各自ノ家祿賞典祿給與ノ制限ヲ改メ一時ニ之ヲ下渡ス
 ト爲シ以テ公債証書ヲ付與スヘシ
 一 永世祿ノ者ヘハ

金祿元高 賞典祿アルモノハ家
 祿ニ合計シ元高トス

年限

七萬圓以上

五ケ年分

七萬圓未滿六萬圓以上

正五分半二分五厘分

六萬圓未滿五萬圓以上

半期五分半分

五萬圓未滿四萬圓以上

五ヶ年七分五厘分

四萬圓未滿三萬圓以上

六ヶ年分

三萬圓未滿二萬圓以上

六ヶ年二分五厘分

二萬圓未滿一萬圓以上

六ヶ年半分

一萬圓未滿七千五百圓以上

六ヶ年七分五厘分

七千五百圓未滿五千圓以上

七ヶ年分

五千圓未滿二千五百圓以上

七ヶ年二分五厘分

二千五百圓未滿千圓以上

七ヶ年半分

右一ヶ年五分ノ利子ヲ給ス

其書ニ依テ千圓未滿九百圓以上

七ヶ年七分五厘分

一、半期未滿九百圓未滿八百圓以上

八ヶ年分

八百圓未滿七百圓以上

八ヶ年二分五厘分

七百圓未滿六百圓以上

八ヶ年半分

六百圓未滿五百圓以上

八ヶ年七分五厘分

五百圓未滿四百五十圓以上

九ヶ年分

四百五十圓未滿四百圓以上

九ヶ年二分五厘分

四百圓未滿三百五十圓以上

九ヶ年半分

三百五十圓未滿三百圓以上

九ヶ年七分五厘分

三百圓未滿二百五十圓以上

十ヶ年分

二百五十圓未滿二百圓以上

十ヶ年二分五厘分

二百圓未滿百五十圓以上

十ヶ年半分

百五十圓未滿百圓以上

十一ヶ年分

右一ケ年六分ノ利子ヲ給ス

百圓未滿七十五圓以上

十一ケ年半分

七十五圓未滿五十圓以上

十二ケ年分

五十圓未滿四十圓以上

十二ケ年半分

四十圓未滿三十圓以上

十三ケ年分

三十圓未滿二十五圓以上

十三ケ年半分

二十五圓未滿以下

十四ケ年分

右一ケ年七分ノ利子ヲ給ス

一終身祿ノ者ハ

右永世祿年限十分ノ五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ

一年限祿ノ者ハ

一十年以上ノ者ハ 右永世祿年限十分ノ四ヲ給ス

三十年未滿八年以上ノ者ハ 右永世祿年限十分ノ三五ヲ給ス

八年未滿六年迄ノ者ハ 右永世祿年限十分ノ三ヲ給ス

六年未滿四年迄ノ者ハ 右永世祿年限十分ノ二五ヲ給ス

四年未滿三年迄ノ者ハ 右永世祿年限十分ノ二ヲ給ス

二年ノ者ハ 右永世祿年限十分ノ一五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ

第二條 此公債証書ノ利子下渡シハ明治十年分ハ十一月翌年五月ニ相渡シ以後之レニ準シ年々兩度ニ下渡シトス

第三條 家祿賞典祿元高ヲ付與スル年限ニヨリテ利子ノ差異ヲ生スルキ元高ニ向テ公債証書ヲ付與スル制限左ノ如シ

一 慶應義塾

一金壹萬圓

家祿賞典祿合高

此六ヶ年半分金六萬五千圓此公債証書ノ利子一ヶ年五歩金三千二百五十圓ト成ル
一金九千九百圓 家祿賞典祿合高

此六ヶ年七分五厘分金六萬六千八百二十五圓此公債証書ノ利子一ヶ年五歩金三千
三百四十一圓廿五錢トナル

右比較九千九百圓ノ方利子九十一圓廿五錢ノ過ト成ル然ル時ハ壹萬圓ノ利子金額ニ
超過セザルヲ以テ制限トナス故ニ九十一圓廿五錢ヲ引去リ利子三千二百五拾圓ニ適
當スル公債証書ヲ下渡ヲ以テ規則トス其他右ニ類似ノ件ハ皆之ニ準ス

第四條 此公債証書ハ利子ノ差ニヨリ區別アリト云モ其發行スル種類ハ左ノ如シ

五圓 十圓 廿五圓 五十圓 百圓

三百圓 五百圓 千圓 五千圓

第五條 前條公債証書ヲ付與スルキニ當リテ公債証書ニ未滿ノ端金ハ都テ通貨ニテ相

渡スヘシ

第六條 此公債証書ノ元金ハ五ヶ年間之ヲ据置キ六ヶ年目ヨリ大藏省ノ都合ニ因リ毎
年抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ消却シ都合三十ヶ年間ニ悉皆之ヲ消却スヘシ

第七條 此公債証書發行ニ付テノ順序其外トモ此條例外ノ事件ハ都テ新舊公債証書發
行條例ノ通リタルト心得ヘシ

六〔第百九號〕

今般第百八號ヲ以テ布告候金祿公債証書ノ儀ハ追テ指令ニ及フ迄書入質入并賣買約定
取結候儀ハ禁止候條此旨布告候事

明治九年八月五日

太政大臣三條實美

勸業寮 報告

福島縣下岩代國安達郡玉井村永戸長之助ノ畜牛七月二十日病ヲ發シ頭ヲ低レ鬱憂ニ行
步踉蹌トシテ小便ハ粘リ大便ハ燥尿一兩日ヲ經テ咽喉ノ外部非常ニ腫脹シ水液五六升

瀉溜シ眼光暗濁全ク反芻ヲ止メ時ニ咳嗽齟齬シ呼吸窘迫シ眼鼻ヨリ稀薄ナル液ヲ
 泄ラヌ是レ疫症ナルニヨリ成規ノ如ク撲殺セシメタリ
 岡山縣下備中國高梁村長船彌兵衛畜牛去ル七月十八日午前八時ヨリ十二時迄暴瀉シテ
 竟ニ斃レタリ依テ成規ノ如ク埋塵セシム○又同國哲多郡石蟹村平坂次郎所持之牝牛本
 月三日午後三時頃ヨリ絶食シ四足ヲ震ハシ舌尖ヲ出シ耳ヲ垂レ眼目赤ク首ヲ伸シ鼻ヨ
 リ粘液ヲ流シ臭氣甚シク且下痢シ胸腫毛立ノ体全ク傳染疫ト認メタレバ速ニ撲殺セシ
 メタリ

右一般爲心得廣告候也

九年八月

勸業寮

〔太政官〕

正誤

明治九年八月七日

本年(七月)第四百四號(全報第十四號)明九七月之部ニ載ス(布告再犯加等罪例條)中

再初三犯ハ再犯三犯ノ誤リ

〔警〕〔甲第二號〕

本年三月二日ノ第百六拾三號達憲治監入出願手續第貳條ハ自今懲役所署へ可願出義ト可相心得此旨布達候事

明治九年八月七日

大警視川路利良

〔東〕〔甲第七十四號〕

諸出版物内務省へ納本之節彫畫圖扇之類ハ是迄仕立上之分ヲ以テ納メ來候處向後仕立上ニ不及繪紙之儘相納可申此旨布達候事

明治九年八月七日

東京府權知事楠本正隆

〔東〕〔甲第七十五號〕

内務省甲第貳拾七號布達板權所有書目ハ區長へ下ケ渡置候條此旨布達候事

明治九年八月七日

東京府權知事楠本正隆

〔乙第八號〕

...

引手茶屋ノ儲新規開業不聞届候條爲心得此旨正副元締へ可相達事

明治九年八月八日

大警視川路利良

東〔甲第七十七號〕

病死體患部解剖之儀者是迄一々出願ノ上差許來候處今後死者ノ親族醫師双方熟談ノ上該區務所へ届置患部ノミノ解剖ハ不苦候條此旨布達候事

明治九年八月八日

東京府權知事楠本正隆

勸〔勸業寮〕錄事

堺縣下和州字陀郡鹽井村井上新五郎持所ノ牡牛七月十六日午前十時頃ヨリ發病翌十七日〇至リ病勢益熾ニ全身發熱四足厥冷眼球紅色ヲ潮シ口鼻ヨリ糞色ヲ帶フル粘液ヲ流泄シ又時トシテハ玲瓏玻璃ノ如キモノアリ且雙耳ヲ垂レ反嚙ヲ止メ腹部膨脹シ氣息塞迫シテ呻吟煩悶セリ依テ撲殺セシメント其手續ヲ爲スノ際同日午后十時頃竟ニ斃死セリ

和歌山縣下胡麻生村土屋孫市所持ノ牡牛七月九日酷烈ナル疫病ニ罹リ斃死セリ依テ成規ノ如ク埋瘞セシメシニ同中旬ニ至リ垂井村乾久治吉原村西川龜助二人ノ所持セル牡牛各一頭同症ノ病ニ罹リタレハ例規ニ照シ撲殺セシメタリト届出ツ尤其容跡ハ前文堺縣疫牛ノ症ト大同小異ニシテ別ニ異リタル症モ見エザレバ茲ニ復詳記セズ右一般爲心得廣告候也

九年八月

勸業寮

乙第六十九號

府縣

額外常費ノ儀本年七月一日ヨリ別紙申請區分ニ准據請取方可申出候尤明治八年(十一月)大藏省乙第百五拾五號達書ノ通明細仕譯書(費項ノ内譯計算ノ調査ヲ爲スベキ様概テ明治八年(一月)第六号ヲ以テ公達相成候明細表ノ如キ体裁ニ倣ヒ調成スベシ尤家祿賞典祿ノ如ハ從前ノ通り概算書ヲ以テ申請スベシ)添付候儀ト可相心得此旨相達候事

明治九年八月十日

内務卿大久保利通
大藏卿大隈重信

額外常費申請區分

第壹 季節ヲ照シテ大藏省へ申請スベキ分

家祿 賞典祿 社寺遞減祿

右家祿賞典祿ハ明治七年(十一月)第百貳拾五号布告ノ通(社寺遞減祿ハ右ニ準ス)翌年五月迄ニ交付スヘキモノ故其前申請スベシ

陸軍武官傷痍扶助

右ハ明治八年(四月)第四拾八號公達ノ通年々六月十二月ニ交付スベキモノ故ニ其前申請スベシ

賞典祿 舊近衛兵賞典祿
ノ内

右ハ明治八年中大藏省ヨリ達及ニ指令セシ通リ年々七月十二月ニ交付スベキモノ故ニ其前申請スベシ

徵兵費 國幣社例祭金幣料

右ハ各其季節前概算ヲ以テ申請スベシ

第貳 概算ヲ以半年分ツ、前以大藏省へ申請スベシ

賑恤 賑恤ノ内 棄兒養育米 証券印紙諸費 煙草印紙諸費

訴訟野紙諸費 度量衡諸費 囚人諸費

懲役人諸費 禁錮人諸費 銃創人諸費

第三 豫備金ヲ以繰替置每三ヶ月取束申請スベキ分

賑恤ノ内 窮民恤救

右ハ明治九年(四月)内務省乙第四拾九号達書ノ通リ内務省へ申請スベシ

官省札交換費 舊貨幣交換費 損傷札交換費

右ハ大藏省へ申請スベシ(申牒書ハ各通タルヘシ)

但交換費ノ儀金員多數ナレハ半年分ツ、概算ヲ以前以申請スルモ可ナリ

第四 豫備金ヲ以繰替置其時々申請スベキモノ

賑恤 水火災救助
ノ内 水 火 災 救助

祭料

同三子手當ノ内 恩賞 孝子等ノ褒賞ノ内 恩賞 死傷ノモノ吊
外國船漂着費 難破船諸費

救疫諸費

右内務省へ申請スベシ

復籍人諸費

牛疫豫防費

右大藏省へ申請スベシ

但復籍人諸費ハ毎三月取束テ申請スルモ可ナリ

右ハ申請ノ區分概略書面ノ通タルヘシ尤舉ル所ノ費目ハ類例ヲ示スノミナシハ此餘ハ

類推例比ヲ要ス

(費目概表略ス)

〔文部省〕

第三十八號

明治九年八月三日發行

文部省藏板ノ圖書ヲ翻刻シ又ハ活字ヲ以テ印刷スル者ハ其表題ノ上ニ翻刻ノ文字ヲ記

載スベシ

〔乙第九號〕

貸坐敷有之地區長戸長

娼妓ト貸坐敷トノ契約書調印ノ義ハ父母兄弟或ハ親戚ニ限リ可申ノ處近來緣故無之者
身元引受ニ相立調印候者モ有之趣不都合ニ付自今他人引受相立候義決シテ不相成候若
シ親戚等無之不得止他人引受相立候節ハ其緣由詳細可届出此旨正副元締并渡世筋ノ者
へ可相達候事

明治九年八月十日

大警視川路利良

〔乙第十號〕

貸坐敷有地之區長戸長

娼妓契約書檢閱願出候節ハ自今寫一通爲差出可申此旨相達候事

明治九年八月十日

大警視川路利良

〔第六百拾號〕

内國人民製造ノ西洋紙及ヒ内國製ノ土錠當分ノ内無稅輸出差許候條此旨布告候事

但課稅ノ節ハ貳ヶ月前ニ布告スベキ事

明治九年八月十一日

右大臣岩倉具視

因(甲第三十號)

版權免許ノ儀所在ノ地方廳ヲ經由シ免許ヲ得テ後他ノ府縣ニ所屬換或ハ轉住寄留換等
ニ付藏版持轉スル者ハ別紙書式ニ準シ舊新兩地方廳ヲ經テ當省へ可届出此旨布達候事
但他(府縣)ノ者へ版權(讓賣)渡ノ者モ出版前後ニ拘ラズ書式ニ準シ届出へキ事

明治九年八月四日

内務卿大久保利通

書式(用紙美濃紙)舊地方へ

藏版持轉御届 {出版前ノ者ハ移轉出
版御届ト記スヘシ}

一書名

何册

右何年月日版權免許ヲ受ケ所持候處此度何地方へ所屬換致シ藏版持轉 {出版前ノ者ハ
ルニ下文} 該地方ニ於テ出版同縣へ免許料上納候ニ付此段御届申上候也 {藏版以下ニ代
ヲ用フ}

何年月日

何府何族
何縣何族
何誰印

内務卿某殿

府縣與書出版届ニ同シ

新地方へ

藏版持轉御届 {出版前ノ者ハ移轉出
版御届ト記スヘシ}

一書名

何册

右何府縣ヲ經テ何年月日版權免許ヲ受ケ所持候處此度何府縣へ所屬換致シ何地所へ藏版持
轉 {出版前ノ者ハ何地所以} 何地所ニ於テ出版同縣へ免許料上納候ニ付此段御届申上候
也 {下ニ代ルニ下文ヲ用フ}

何年月日

何府何族
何縣何族
何誰印

内務卿某殿

與書同前

因(乙第九十二號)

廳府縣(東京府ヲ除ク)

巡查懲罰例別紙之通改正候條此旨相達候事

明治九年八月五日

內務卿大久保利通

巡查懲罰例

- 第一條 凡職務ノ規則ニ違背シ及ヒ怠慢失誤アル者ハ其情狀ヲ審察シ俸給一ヶ月百分ノ一ヨリ少カラズ一ヶ月ヨリ多カラザルノ罰金ヲ科シ經キ者ハ呵責ニ止ム
- 第二條 凡犯狀ノ職務ヲ耻カシムルニ係ル者ハ免職ス
- 第三條 凡罰金未ク完納セサル中免職死亡等ニ係ル者ハ追徴スルコトヲ免ス
- 第四條 凡罰金ハ毎月ノ俸金ヲ控除シテ完納セシム 但月俸三分ノ一ヲ過ルコトヲ得ス
- 第五條 凡官物ヲ遺失及毀損スル者ハ相當ノ罰金ヲ科シ尙其代價ヲ賠償セシム

〔甲第十六號〕

長崎縣下築町寄留福岡縣平民山城平五郎所持ノ舊公債証書五拾圓け印貳八壹六番壹柒紛失候旨届出候條右種類番記号ノ記書ハ一切取引ヲ爲スベカラズ又何人ニ不限所持致居候ヲ見聞候ハ、速ニ管轄廳へ訴出管轄廳ヨリハ即當省へ可届出此旨布達候事

明治九年八月十一日

大藏卿大隈重信

〔乙第九十三號〕

府 縣

當省中授產局設置候條此旨相達候事

明治九年八月十日

內務卿大久保利通

〔勅〕置賜縣ヨリ內務省へ伺

三月廿日

第一條 婦女子相續ノ儀ハ當主死去後嗣子無之婦女子ノミヨテ不得已事情アリテ養子難致者ニ限リ允許可致ノ處順序ノ儀ハ長次女有之時ハ家督相續ハ必總領ノ男子ニ準據シ長女へ相續爲致可然存候得共若シ母妻姉妹ノミニシテ女子無之時ハ順序何レテ的當ト見做シ相續爲致可然哉但婦女子相續ノ儀ハ一切順序ニ拘ハラズ親戚ノ協議ヲ以テ相定メ出願候者へ允許可然哉

第二條 婦女子相續ハ當主死去後ニ限リ候處當主疾病或不得已事故有之隱居致候節女子ノミヨテ養子難致事情有之其旨具狀出願候節其事實無相違ニ於ハ同様允許可然哉

第三條 曾テ長男ヲ他家へ遣シ置キ其後養子致シ嗣子ニ相定メ候處右長男事故有之離縁復籍候ニ付其家血統ノ故ヲ以長男ヲ嗣子ニ直シ養子ノ嗣子ヲ廢シ度段本人并養實協議連署出願候得ハ聞届不苦哉
右件々相伺候也

〔指令〕 六月十五日

書面伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一條 婦女子相續ハ順序ニ不拘親族ノ協議ニ任スベキ事

第二條 追テ何分ノ可及指令事 第三條 伺ノ通

〔宮城縣ヨリ内務省へ伺〕

五月十九日

防火具及足留人足等從來縣廳ニ設置無之唯縣下市街ニ消防組ヲ設ルノミニ有之處今般金庫建築ニ付テハ別シテ實地消防方行届候様致度然ルニ尋常ノ器械ニテハ到底無實ニ屬スル見込ナレハ斷然ボンプ一個ヲ新調シ更ニ一ヶ年金五拾圓人足手當トシ之ヲ右消

防組へ合併シ失火ノ際官民ノ便宜充實ニ仕度尤ボンプノ儀定額常費ヲ以テ買入申度候得共常費額モ超過一時買入ニ差支候間旁一應經伺買入方取計度相伺候也

〔指令〕 六月十六日

書面消防具購求ニ付別途下金ノ儀ハ難相成候條縣稅ノ内ヲ以テ可取計尤モ其廳駈付入足費ハ常費ノ内ヲ以可仕拂儀ト可心得事

〔山形縣ヨリ内務省へ伺〕

五月六日

本年太政官第三十八号ヲ以警察官吏等制服着用ノ節ヲ除クノ外帶刀被禁候旨布告有之候處地方長次官ノ内ニ於テ警察事務ニ臨ミ候節ハ制服ヲ着用イタスベキ儀ニ可有之哉若シ平服ニテ不苦候ハ 警備ノタメ帶刀スルモ差支有之間敷哉若シ又平服ニテ帶刀スルハ右御布告ニ抵觸候ハ、制服ノ儀如何相心得可然哉相伺候也

〔指令〕 六月十九日

書面伺ノ趣長次官警察上ニテ出張候節着服ハ通常ノ通帶刀ノ儀ハ不相成儀ト可心得事

司〔福島縣ヨリ司法省へ伺〕

九年四月十四日

郵便函中、紙幣ヲ投入スル者アリ依テ成規ノ通揭示候處事主申出無之右ハ尋常遺失物ト看做シ處分シ可然哉此段相伺候已上

〔指令〕 九年五月二日

一年ヲ經テ主ナケレバ官沒スベシ

教〔達書乙第十一號〕

各宗管長

教導職試補ニテ一寺住職之者事故有之管長ヨリ試補差免候節ハ一應其管轄廳へ申出候上處分可致儀ト可心得此旨相達候事

明治九年八月十四日

教部大輔穴戸璣

開〔甲第一號〕

當使管下渡島國津輕郡福山舊城跡へ新ニ街衢ヲ設ケ松城町ト唱へ候條爲心得此旨布達候事

明治九年四月廿七日

開拓長官黒田清隆

開〔甲第二號〕

當使管下第二十五大區二小區根室國根室郡根室ニ於テ從前ノ市街ニ接シ新ニ街衢ヲ設ケ町名左ノ通相定候條此旨布達候事

明治九年七月八日

開拓長官黒田清隆

- | | | | |
|------|---------------|-----|---------------|
| 鳴海町 | 一丁ヨリ
五丁ニ至ル | 有磯町 | 一丁ヨリ
三丁ニ至ル |
| 松ヶ枝町 | 一丁ヨリ
三丁ニ至ル | 彌榮町 | 一丁ヨリ
四丁ニ至ル |
| 常盤町 | 一丁ヨリ
三丁ニ至ル | 緑町 | 一丁ヨリ
五丁ニ至ル |

警〔乙第十一號〕

貸座敷有之地區長戸長

本年七月乙第六号ヲ以テ相達候娼妓ト貸座敷主トノ結約書取消届ノ義ハ消却セシ結約書相添雙方ヨリ届出候義ト可心得此旨正副元取締并渡世筋ノ者へ可相達事

明治九年八月十四日

大警視川路利貞

〔甲第七十八號〕

府下内藤新宿勸業寮支廳内農事修學場へ農業獸醫兩生徒志願ノ者ハ去七月十五日限り出願可致旨甲第五十七號ヲ以テ相達置候處獸醫學之方人員未滿ニ付當八月二十五日迄延規候旨内務省ヨリ達有之候條志願ノ者ハ前同様ノ手續ヲ以同日迄ニ直ニ同寮支廳へ可申出此旨布達候事

明治九年八月十二日

東京府權知事楠本正隆

〔甲第七十九號〕

平民改印之節ハ其時々府廳ニ届來候處自今區務所エノニ必ニ相届可申此旨布達候事
明治九年八月十二日

東京府權知事楠本正隆

〔丙第三十四號〕

今般市街地々租改正調ニ付地主總代評價人等撰舉之手續取調可申出專

明治九年八月十四日

東京府權知事楠本正隆

〔甲第二十九號〕

本年八月太政官第百五號公布米商會所條例ヲ遵奉シ營業致度者ハ自今別冊米商會所成規ニ照準出願可致此旨布達候事

但昨八年大藏省甲第拾六號同第拾九號及ヒ同年六月心得達ノ趣ハ取消候事

明治九年八月一日

内務卿大久保利通

米商會所成規 目 錄

第一條 會所創立出願手續 第二條 開業ノ手續

第三條 營業報告手續 第四條 諸願届其他書類用紙ノ事

第五條 記録保存ノ事

附 第一號 創立願書々例 第二號 創立證書々例

第三號 會所定款書例 第四號 申合規則書例

第五號 開業免狀雛形 第六號 實際報告書例

米商會所成規

此成規ハ米商會所ノ條例ヲ遵奉シ該會所ヲ創立セント欲スル者ヲシテ其創立出願ノ手續及ヒ社則其他ノ標準等ヲ豫知セシメノカ爲メ之ヲ制定スルモノナリ

第一條 會所創立出願ノ手續

第一節 凡米商會所條例ノ旨趣ニ基キ會所ノ發起人ヨリ差出ス可キ創立願書ハ書例第一號ニ照準シテ之ヲ編製スベシ

第二節 創立證書ハ會所ヲ創立スルニ付キ綱領ノ條件及ヒ株主ノ約束ヲ明記シ總員ヲシテ必ズ之ヲ確守踐行セシムヘキ旨ヲ保證スルモノナリ書例第二號ニ照準シテ之ヲ編製スベシ

第三節 會所定款ハ會所ヲ創立スルニ付發起人該會所ノ便宜ヲ商量決定シテ株主一同

ヲ約束スヘキ條款ヲ記載スルモノナリ書例第三號ニ倣ヒ之ヲ編製スベシ

第四節 申合規則ハ賣買取引ニ付キ賣買主雙方ノ間ニ於テ會所ヘ對シタル約束ノ要件等ヲ記載スルモノナリ書例第四條ニ倣ヒ成ル可ク丈ケ綿密ニ之ヲ編製スベシ

第五節 右ノ會所定款申合規則ハ發起人ニ於テ書例中ノ箇條ヲ省略シ或ハ之ヲ増加スルモ其便宜ニ任スベシ

第六節 當省ニ於テ會所ノ創立ヲ承認スルキハ其創立證書及ヒ會所定款申合規則等ニ當省ノ印章ヲ鈐シ地方官ニ指令シ以テ之ヲ請願人ニ達セシムベシ

第二條 開業ノ手續

第一節 發起人會所創立ノ許可ヲ受ケタル時ハ直ニ條例ノ旨趣ニ遵ヒ株主募集役員撰任等ノ順序ヲ經テ資本總高ノ内三分ノ二營業保證ノ金額ヲ其地方廳或ハ國立銀行ニ預ケ以テ開業免狀請求ノ手續ヲ爲スベシ

第二節 會所ヨリ地方廳又ハ國立銀行ヘ預クル所ノ保証金若シ公債證書アル時ハ夫レ

ニ屬シタル定規ノ利子ハ會所之ヲ得ヘシト雖モ其他利子ヲ收受スルコトナカルヘシ尤別段ノ約束ニ據リ預ケタル時ハ其方法約定ノ旨趣ヲ詳記シ地方廳ヲ經テ之ヲ當省ニ届出ベシ

第三節 當省ニ於テハ會所ノ名ヲ以テ地方廳或ハ國立銀行ニ預ケタル現金或ハ公債証券ノ實額其會所資本總高ノ三分ノ二ニ相違ナキ確證ヲ檢シ其ノ會所ニ開業免狀ヲ第五號離形與フベシノ如シ

第四節 會所開業ノ後ト雖モ其商業ノ模様ヲ檢查シ買賣主ヨリ差入タル證據金ノ合高ヲ見合資本金ノ額ヲ増加スベキ旨ヲ命ズルコトアルベシ

第三條 營業報告ノ手續

第一節 會所頭取肝煎ハ左ノ報告ヲ地方官廳ヘ差出スベシ地方官ニ於テハ一應檢査ノ上當省ヘ差出スベシ

第一 會所毎月實際報告ノ手續

是ハ毎月前一ケ月賣買約定ニ係リタル金數ノ合高ヲ掲ケ其内現場定期ノ取引ヲ區分シ之ニ平均相場ヲ附記スベシ但書例第六號ニ照準シテ之ヲ編製シ翌月五日迄ニ該地ニ差立ツベシ

第二 總計表報告

是レハ毎年前一ケ年營業ニ係リタル金員出納高ヲ掲ケ其内株金并ニ手数料等ノ總收入ヨリ税金及ビ配當金其他社費一切ノ遣拂又ハ積立金ノ有無等ヲ記載スベシ但書例第七号ニ照準シテ之ヲ編製シ翌年一月中ニ該地ヲ差立ツ可シ

第三 株主仲買人姓名表報告

是ハ株主仲買人ノ姓名族籍住所株數及ヒ身元金高等ヲ記載スベシ但書例第八號ニ照準シテ之ヲ編製シ定式撰任集會ノ日ヨリ三十日限リ該地ヲ差立ツベシ

第四 役員上任報告

是ハ頭取副頭取肝煎支配人上任ノ都度其印鑑ヲ添ユベシ但書例第九號ニ照準シテ

之ヲ編製シ上任ノ日直ニ該地ヲ差立ツベシ

第四條 諸願屆其他書類用紙ノ事

第一節 會所ヨリ地方廳ヲ經テ當省ヘ可差出諸般ノ願屆其他ノ書類及ヒ報告等ハ都テ美濃紙又ハ該會所ノ名號アル界紙ヲ用フヘシ

第二節 創立證書及ヒ會所定款申合規則ノ本書ハ必證券界紙ヲ用フヘシ又株券其他証券類ハ印稅規則ニ從フベシ

第五條 記錄保存ノ事

第一節 創立證書會所定款申合規則及頭取肝煎撰任社中集會ニ就テノ報告議事ノ如キ會所ニ關係スル書類ハ一切之ヲ記錄ニ綴屬シ頭取肝煎之ニ記名調印シ以テ後日ノ証據參觀ノ爲メニ保存シ臨時政府ノ檢査ヲ受クヘシ

第一號 創立願書々例

米商會所創立願

明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣ニ基キ凡ソ下條ノ目的ニ據テ協同結社米商會所ヲ創立シ營業致度候ニ付右創立御許可被成下度依テ別紙創立証并ニ定款申合規則共相添此段奉願候也

使府 藩縣 管下

一 創立場所

何町港

一 戶數

何萬軒

一 該地費消米

何百萬石

一 同產出米

何拾萬石

一 輸出或輸入米

何拾萬石

內譯

高米凡何部

何郡何港ヨリ輸出
何國何郡ヨリ輸入

同

何郡

何國何郡ヘ回送
何郡何港ヘ回着

一米商人

何百人

一 賣買取引米凡積何千萬石

右現今ノ實況及將來賣買取引ノ見込共書面ノ通御座候以上

發起人

年號月日

何 某

管轄地方長官宛

何 某

第二號 創立証書ノ書例

米商會所創立証書

明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉シ米商會所ヲ創立シテ其商業ヲ經營セント謀リ此証書第五條ニ連名シタル者協議シテ左ノ條々ニ取極候也

第一條 當會所總員ハ米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉シ且會所定款申合規則ヲ確守スベシ

第二條 當會所ノ名號何々(國名郡名又ハ所在ノ地名等)米商會所ト稱スベシ

第三條 當會所營業ノ年限ハ開業ノ日ヨリ滿何個年タル可シ

第四條 當會所ハ(使府)第何大區何小區何町港何番地ニ取建ツ可シ

第五條 當會所ノ資本何萬圓ニシテ之ヲ何百株トナシ其内發起人ニテ所持スベキ株數并ニ其ノ屬籍住所姓名等左ノ表ノ如シ

株數	屬籍	住所	姓名
何株 此金一〇〇圓	使府 藩華士族平民 縣	使府 藩第一大區一小区一町一番地 縣 居住 寄留	某
合株數…… 此金一萬圓			總計幾人

第六條 當會所ノ株主及ヒ仲買人ハ内國人ニ限ルベシ

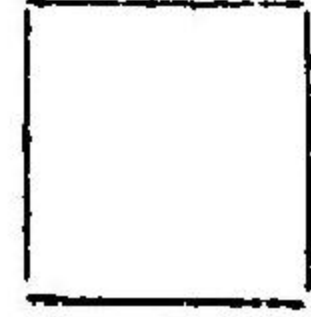
此証書ハ株主一同ノ利益ヲ謀ル爲メ取極メタル證據トシテ各姓名ヲ自記調印致候追テ加入候者ハ順次連署セシノ可申候也

年號月日

株主等連名印

内務省

鈐印位置



朱印

第三號 會所定款書例

會所定款 明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉シ使府 藩縣第何大區一小区一國一郡一町一村一番地ニ於テ之ヲ創立セシカ爲メ協同結社シテ爰ニ株主一同互ニ約定スル規程ノ條々左ノ如シ

第一條 當會所ニ加入シ株主帳ニ記名調印スル人々ハ創立証書及此定款并申合セ規則ヨモ承認セシ證據トシテ必記名調印スベシ

第二條 當會所ハ米商人ノ集會シ賣買取引ヲ爲ス所ニシテ其事務ハ此定款并申合規則ニ從ヒ之ヲ會所頭取及肝煎ニ委任スベシ又頭取肝煎等ハ其約定ヲ監護シ取引ヲ確實ナラシメ其他會所一切ノ責ニ任スヘシ

第三條 當會所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

- 頭取 壹人 副頭取 幾人 肝煎 幾人
- 商議掛 各幾人
- 檢査掛 各幾人
- 出納掛 各幾人
- 支配人 幾人

書記方 幾人 勘定方 幾人 簿記方 幾人

右ノ役員ハ各其職務ニ對シ會所ニ於テ定メタル給料ヲ受收スベシ

第四條 當會所ノ肝煎ハ投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主ノ中ヨリ撰舉シ其人員

ハ幾名ト定ムベシ但此内幾名ハ會所創立ノ地ヲ云ニ壹ケ年以上在住シタルモノニ限ルベシ

又其撰舉ノ初集會ノ月日ハ株主一同ノ都合ニ任セ以後ハ毎年定式ノ集會ニ於テ之ヲナスベシ

右撰舉ニ應シタル肝煎ハ其同僚中ニ於テ投票ヲ以テ頭取一名副頭取幾名ヲ撰舉スベシ若シ頭取肝煎等ニ適當スベキ人才アリテ衆望之ニ歸スルモ其者ノ所持株不足ナルヲ以テ撰舉難キハ其株數ヲ定額ニ充ツル迄ノ金高ニ増加セシメ然ル后撰任スルヲアルベシ

正副頭取ノ在職ハ一ケ年又肝煎ハ二ケ年(或ハ三ケ年)間ヲ以テ一期ト爲スベシ但衆望ニ由リテハ重年セシムルヲ得ベシ

毎年肝煎等撰擧ノ集會ニ於テ其人員ノ半〔或ハ三分一〕ヲ新任シ其順次舊員ト交代セ
シムベシ故ニ初年奉職セシ人員ノ半〔或ハ三分一〕ハ一ケ年間又ハ殘員ハ二ケ年〔
或ハ三ケ年〕間在職タルヘシ

頭取肝煎ノ内不時ノ缺員アルトキハ他ノ頭取肝煎ニテ代人ヲ撰擧シ其缺ヲ補フベシ
但シ此代人ハ先役奉職期限踰ユヘカラス

支配人以下ノ役員ハ肝煎ノ衆議ニ依リ必社中ノ人員ニ限ラス又社外ヨリ之ヲ撰任ス
カト有ルヘシ

第五條 頭取ハ會所一切ノ事務ヲ總括シ他ノ役員ヲ指揮シテ其職任ヲ盡サシムルノ權
アルヘシ又頭取ハ肝煎ノ分掌各掛ヲ議定スルノ權アルベシ

頭取ハ株主決議ノ旨趣ニ從ヒ株金納入ノ手續ヲ取極メ之ヲ株主ニ通達シ或ハ之ヲ督
促シ或ハ期約ヲ違フ時ハ會所於テ其本人へ告知ノ上株金高ヲ沒收スルノ權アルヘシ

頭取ハ米商會所條例及此定款并申合規則ニ從ヒ總テ其適任ノ職務ヲ執行ヒ不正犯則

ノ所行ハ自ラ之ヲ爲サ、ルノミナラス又他人ヲ監督スルノ責ニ任スベシ

頭取ハ肝煎ノ集會ニ臨ミ常ニ議長トナリ其議事ヲ判決スルノ權アルベシ
副頭取ハ常ニ頭取ノ事務ヲ翼成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルコトアルヘシ

肝煎ハ衆議ヲ以テ支配人以下ノ役員ヲ撰任シ其分掌ノ課程及ヒ其權限給料年期等ヲ取
極メ又其身元引受人ヲ約定シ或ハ保証金ヲ取置又ハ之ヲ褫貶黜陟スル等ノ權有ヘシ

肝煎ハ衆議ヲ以テ社中ノ差違レテ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ社中處務上ノ成例ヲ廢
立シ又ハ株主ノ衆議ヲ取ランカ爲メ臨時ニ之ヲ招集スルノ權アルベシ

肝煎ハ毎月何日ヲ以テ肝煎定式ノ集會日ト極ム可シ又此ノ會議ニ於テハ發言ノ權利
ハ一人ニ付一説ト定メ衆議ヲ取リテ其議事ヲ決定ス若シ可否ノ數相半ハスルキハ議

長ノ判決ニ任ス可シ
右會議ニ當リ出席ノ定員其半ニ充タザル時ハ其議事ヲ始ム可カラズ但急遽ノ事件ハ

此限コアラザル可シ

肝煎ハ頭取又ハ其同僚中ニ於テ職任ニ不相當ノ行ヒアルカ又ハ職務ヲ怠ル者アルト
 キハ時宜ニ依リ其者ヲ免黜スルヲ得ベシ但此場合ニ於テハ臨時委員ヲ命シテ是非
 ナ議シ次會集會ノ節無名投票ノ法ヲ以テ三分二以上ノ説ニ從ヒ其可否ヲ決スベシ
 肝煎ハ株主仲買人ノ所爲ヲ監督シ又其手ニテ設ケタル私則慣法等ヲ廢止スルノ權ア
 ル可シ尤此權ヲ施ニハ先ツ集會ノ上之ヲ評議シ次回ノ集會ニ於テ決定シ行フヘシ
 肝煎ハ社外ノ人ト社中ノ人トノ間ニ起リタル差違レニハ一切關係スルヲナカル可シ
 尤社中ノ仲買人社外ノ人ノ爲メニ仲買ヲ爲シ退社逃亡死去等ノヲアル場合コアクリ
 其ノ賣買本主ト相手タル社中ノ仲買人トノ間ニ差違レアルハ此限ニアラザル可シ
 此場合ニ於テ社外ノ賣買本主ヨリ肝煎ノ處決ヲ請求セル時ハ其賣買本主ヲ社中ノ仲
 買人同様ニ見做シ之ヲシテ肝煎ノ處決ヲ守リ決メテ違背セザルヘキ旨ノ誓詞ヲ爲サ
 シメ然ル後之レカ處決ヲ爲ス可シ
 頭取ノ決議ニ依リ肝煎ノ内幾名ニ商議掛出納掛検査掛ヲ命ス商議掛ハ常ニ會所營業

事務上ノ得失利害ヲ商量討論シ及自般ノ施設上ニ付キ其順序ヲ立テ或ハ其議案ヲ草
 シ之レヲ頭取ニ申陳シ又ハ社中ノ衆議ヲ取ランガ爲メ臨時集會ヲ催シ併セテ社中一
 般ノ疑問ニ答辨シ及ヒ違約人處分等ノ事ニ任スベシ
 出納掛ハ會所ニ關スル命數出納ノ事ヲ擔當シ資本金并ニ身元金證據金米代金及ヒ廣
 敷等ヲ管守シ併テ銀行引合等ノ事ニ任スベシ
 検査掛ハ會所ノ監察主役コシテ常ニ金數出納ヲ監シ諸帳簿計算ノ正否等ヲ點檢シ併
 セテ營業ノ實況ヲ視察シ現務ノ得失ヲ指摘シテ其顛末ヲ記録シ之レヲ頭取肝煎及ヒ
 株主一同ニ報告スル等ノ事ニ任スベシ
 検査掛タル者職務ヲ怠リ又ハ偏頗ノ所業其他犯則ノ所業アル時ハ其ノ處分他ノ掛リ
 ノ者ヨリ重クスベシ
 第六條 株主定式集會ハ毎年何月幾日（幾度ニテモ其月日ヲ定メ記載スベシ）午前第何時ヨリ第何時迄
 當會所ニ於テ之ヲ執行スベシ其他總株數五分一以上ニ當ル株主ノ請求又ハ肝煎ノ協

議ニ依リテハ臨時集會ヲ開クコトアルベシ右臨時集會ヲ開クニ當リテハ其場所并ニ期日時限及議事ノ大意ヲ記シテ少クモ十日以前ニ頭取肝煎ヨリ總株主ニ報知スベシ
總株數五分一以上ニ當ル株主ノ協議ニテ臨時集會ヲ開カント欲スルキハ其議事ノ大意ヲ頭取ニ陳ベ招集ノ取扱ヲ請求スベシ若シ頭取ニ於テ十五日間以上其手續ヲ怠ルトキハ請求人自ラ招集スルコト得ベシ

株主集會ノ議長ハ頭取或ハ株主中ヨリ臨時之ヲ撰任ス可シ

株主集會ニ當リ出頭ノ總員其半ニ充テザルキハ會議ヲ延引シ更ニ他日ヲ刻スベシ

集議ニ臨ミ株主五名以上ニテ投票ヲ乞フコト非ザレバ別ニ發言可否ノ多少ヲ算スルコト及パス議長其議ヲ斷決シテ之ヲ會所ノ議定録ニ記入シ以テ他日其事ノ證據ト爲スベシ若シ株主五名以上ニテ投票ヲ乞フキハ議長ノ指揮ニ從テ投票法ヲ行フベシ但此投票ノ多數ヲ以テ集議ノ決定ト視做スベシ

集議ニ當リ可否ノ發言相半スルキハ議長之ヲ判決スルノ權アル可シ定式又ハ臨時集

會ニ於テ定款并ニ申合規則ヲ加除改正スル等ハ勿論其他會所ニ般ニ關係セシ條件ヲ決議シタルキハ之ヲ明細ニ記シ必内務省ヘ申告スベシ

第七條 株主ハ集議ニ臨ミ一株ニ付每事一説ヲ發スルノ權アリトス然レドモ各其所持スル株數十株以上百株迄ハ五株毎ニ一説宛百株以上八十株毎ニ一説宛ヲ増加スベシ但會所ノ役員ハ發言スルヲ得ヘカラス

株主ハ其株式ヲ質入抵當トナシタル時間ハ集議ニ臨ミ發言スルヲ得ヘカラス
株主ハ集議ニ當リ代人ヲ出シ發言セシムルヲ得可シ但代人タル者モ自其權ヲ有スル者ニ限ルベシ

第八條 株券破損或ハ紛失セシキハ其株主ノ請求ニ應ジ之ヲ書換ヘ付與スベシ但破損ナレバ其舊券ト引換ヘ紛失ナレハ其次第ヲ明記シ且相違ナキ旨保証人連印ノ証書ヲ差出サシムベシ

第九條 當會所ニ於テ株主ノ集會ヲ要スル時ハ其度毎ニ必頭取ノ名ヲ以少クモ十五日

以前ニ其旨ヲ通達スベシ株主タル者若集金ノ期日ニ至リ其納金ヲ怠ル時ハ更ニ頭取ヨリ報告書ヲ達シ其集金并ニ期限後ノ利子其怠慢ヨリ生ル雜費ヲモ納ムベシ但此報告書ニハ再ヒ其期日ヲ定メ若此期ヲ誤ルキハ其株式ヲ沒收スベキ旨ヲ記載スベシ右ノ報告書ヲ達スルニ尙再期ヲ怠リ納金セザル者ハ頭取ノ意見ヲ以テ其株式ヲ沒收スルコトヲ得ベシ

株主其所持ノ株式ヲ沒收セラル、時右沒收以前ニ納ムベキ集金ハ沒收後ト雖モ尙其責ヲ免ルヘカラズ

第十條 當會所ノ資本金高ヲ増減スルハ株主ノ集會ニ於テ之ヲ決定スベシ但右増減ノ許可ヲ得テ之ヲ施行スルノ方法ハ其時ニ臨ミ各株主ノ衆議ニ任スベシ

第十一條 當會所株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ買入レ或ハ借金ノ抵當ト爲サント欲スルキハ豫メ其趣ヲ肝煎ニ申出テ其承諾ヲ受ケテ後之ヲ行フベシ

株主其所持ノ株式ヲ賣買授受スルニ當テハ雙方連印ノ証書ヲ肝煎ニ差出スベシ右証

書ヲ差出シタル上ハ肝煎ニ於テ會所株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ毎年ノ定式集會前半月間株式ノ賣買授受ヲ停止シ株式帳ノ書改メヲ爲サザルベシ

株主ノ内死去或ハ分散ニ依リ其株式ヲ讓受ク可キ人々ニハ肝煎ノ要用トスル証據ヲ差出サシメ然ル後之ヲ株主トシテ株主帳書改ムヘシ

右ノ手續ヲ爲サズシテ賣買授受シタル株券ハ會所ニ於テ其効ナキ者ト看做スヘシ

第十二條 當會所ニ於テ自ラ米賣買取引ヲ爲シ又ハ他人ノ依頼ヲ受ケテ仲買トナリ之ニ從事スル者ヲ以テ總テ仲買人ト稱スヘシ但他人ノ依頼ヲ受ケテ仲買ヲナシタルトキハ其依頼人ノ姓名住所等ヲ其時々肝煎ニ申告スヘシ

又當會所ノ株主タルモノハ會所ノ役員タラサル時間ハ何時ニテモ肝煎ノ承認ヲ經テ仲買人トナルコトヲ得ヘシ

總テ仲買人タルコトヲ欲スルモノハ毎年何月何日ヨリ何月何日迄ニ書面ニハ姓名住所年齢商業等ヲ記シテ之レニ調印シ且二名以上證人ノ連印ヲ要スヘシ尤株主タル者ハ

別段証人ヲ要スルコ及ハサルヘシ
 此仲買人タル者ハ營業上ニ於テ米商會所條例此定款中合規則ヲ確守ス可キ旨ノ約定
 ナ確實ニ及ヒ違約ノ辨ニ供用スヘキ爲メ身元証據金トシテ金何百圓ヲ當會所ニ差
 出シ置ヘシ但此身元金ハ會所ニ於テ他ニ使用スル等ノコ無キカ故ニ利子等ヲ拂渡ス
 コナカルヘシ
 當會所肝煎ノ承認ヲ經且身元金ヲ差出シ會所ノ仲買人ト成リタル上ハ會所ニ於テ之
 ナ社中ノ人ト視做スヘシ
 仲買人入社ノ期限ハ一ケ年ト定メ毎年何月幾日幾度ニテモ其月日ヲ以撰任ノ期ト
 ナスヘシ但期限中自己ノ都合ニ依リ退社セント欲スルキハ其旨趣ヲ書面ニテ肝煎ニ
 申出ヘシ肝煎ハ右ノ書面ヲ少クモ十日間以上取引場ニ張出シ置會所ニ連帶シタル計
 算上ノ關係ナキヲ認タル上ハ其者ノ退社ヲ許シ身元金ヲ返付シ証人ノ責任ヲ解ヘシ
 仲買人若會所又ハ社中ノ人ニ對シ不正不實ノ所業アルヲ以其者ヲ除名スヘキ場合ニ

至テハ肝煎ノ衆議ニ依リ其証人ヲシテ三十圓以下ノ過怠金ヲ差出サシムルコ有ベシ
 第十三條 仲買人タル者其名代トシテ手代ヲ會所ニ出サント欲スルキハ書面ニテ其者ノ
 姓名住所并ニ丁年ナルコ及委任ノ權限等ヲ詳細書面ニ認メ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得
 テ後會所ニ出スコト得ベシ但此書面ハ少クモ十日間以上取引場ニ張出シ置キ異存ノ
 モノナキコトヲ認メタル上ニアラサレハ手代ヲ會所ニ出スコトヲ許ササルベシ
 手代ノ姓名ハ其主人ノ姓名ト共ニ會所ニ揭示シ其主人ヨリ別ニ報告ナキ時同ハ其手
 代ノ取結タル約定ハ都テ主人ノ引受タルベシ
 主人若其代人委任ノ權ヲ解クキハ速ニ之ヲ肝煎ニ報知スベシ然ル上ハ肝煎ニ於テ其
 趣ヲ會所ニ揭示シ其ノ手代ノ姓名ヲ取消スベシ
 手代若違約ヲ爲スニ其主人ニ於テ違約ノ償辨ヲナシタルキハ其手代ハ會所ニ於テ取
 引ヲ爲スヲ禁シ主人ハ尙仲買人タルヲ得ルト雖モ若シ主人違約人トナリ社中ヲ除名
 セラル、キハ其手代タルモノモ會所ノ出入ヲ禁スルハ勿論タルベシ

第十四條 當會所營業ノ總勘定ハ毎年一月七月兩度ト定ム可
 當會所營業ノ總勘定ヲ爲シ税金并社費ヲ引去リ純益金一ケ年一割以上ノ利子ニ當ル
 キハ其以上ノ幾分ヲ以準備金トナシ積置クベシ但準備金ハ會所ノ災害ニテ損失ヲ受
 シルカ或ハ其他ノ事故ニ依リ株主集議ニ於テ適當トスルコト非ザレハ之ヲ使用ス可ラ
 ズ右準備金ハ時宜ニ依リ肝煎ノ決議ヲ以公債証書又ハ不動産等ニ替置フヲ得ベシ
 利益金ノ内準備金ヲ引去タル殘高ハ之ヲ株高ニ配當シテ各株主ニ割渡スベシ
 當會所ニ損失アリテ資本金不足スルキハ頭取肝煎ヨリ其事情計算ヲ株主一同ニ公告
 シ其後ニ生スル處ノ利益ハ其資本高ノ不足ヲ補ヒ得ル迄ノ間配當ヲ差止ム可
 第十五條 當會所ノ株主及役員等社中ノ諸規則ニ悖戻シ又ハ不信ノ所業ヲナスベカラ
 ス若シ之ニ違フ者アルキハ株主或ハ肝煎ノ集議ヲ以テ其輕重ニ從ヒ相當ノ過怠金ヲ
 付スベシ又其事柄ニ依リテハ公裁ヲ仰クコトアルベシ
 此定款ノ箇條ハ株主ノ議定ニ依リテハ何時ニテモ改正加除スルヲ得可シト雖モ必官

許可ヲ得テ施行スベシ
 右ノ條々ヲ取極タル証據トシテ姓名ヲ記シ調印致シ候也
 年號月日
 株主姓名印
 内務省
 鈴印位置
 朱印
 第四號 申合規則書例
 何々米商會所申合規則
 此米商會所ハ明治九年八月太政官第百五號公布條例ノ旨趣ヲ遵奉シ賣買上尙緊要ノ條
 件ニ於テ總員確守スベキ規程ヲ議定シタルモノ左ノ如シ
 第一條 當會所ノ賣買ハ何地米何石建ノ事
 但シ取組ハ壹石ノ直段ヲ相唱フベシ
 第二條 約定ノ期限ハ三ヶ月ヲ越ス可カラサル事

但シ取引ノ期月ハ何々月又ハ毎月何々日ト定ムベシ

第三條 賣買米ハ本場限帳入トシテ本場後ノ賣買ハ翌日ノ本場ニテ帳入ト定ムベキ事

但シ定期賣買ノ帳入米ハ本日本場賣買掛札ノ平均直段ヲ以テ定價トナシ又現場取

引勘定ハ相對取組直段ヲ以テスベシ

第四條 約定証據金ハ之ヲ四様ニ分チ時價ノ昂低ニ依リ増減スベキモノト雖モ當分ノ

内左ノ通相定メ其出納時間ハ毎日午前何時限リタルヘキ事

第一 本証據金建米何石ニ付何圓

是ハ本日賣買高滿何千石マテハ其割合ニ從ヒ翌日ノ出納時限迄ニ入金スベキ事

第二 半証據金同上何圓

是ハ本場并ニ二番商ヒコテ何千石以上ノ賣買ニ及フモリ即刻記載以割合金ヲ差入
レ残り金高ハ翌日定刻入金スベキ事

第三 追証據金同上何圓

是ハ賣買米約定ノ定價ヨリ壹石ニ付何拾錢又ハ前件本証據金ノ定額ヨリ何割ノ高

低アル時ハ幾度ニテモ追証據金トシテ翌日定刻迄ニ差入レ且又右以外ノ高低何錢

何割ニ至ルキハ即日入金スベキ事

第四 増証據金同上何圓

是ハ約定中何日間休業ノ場合及ヒ取引ノ期月何日前ニ至リテ雙方之ヲ入金スベシ

但本日ヨリノ賣買ハ右ニ準シ増証據金ヲ加ヘテ差入ヘキ事

第五條 諸証據金ノ預リ證ハ各銘ノ通帳又ハ切手ヲ用フルト定メ印稅規則ニ遵ヒ印紙
貼致スヘキ事

但シ通帳及ヒ切手ニ記載シタル金數ハ一切他ニ使用スルヲ許ササルベシ

第六條 約定期限中其賣買米ヲ買戻シ又ハ賣渡シテ要スルモノハ雙方示談ノ上之ヲ肝
煎ニ申立賣買受授ノ手續ヲ經テ其決算ヲ乞フ可キ事

但シ非常ノ亂高下或ハ不穩當ノ所業ト見認ルキハ肝煎ニ於テ其申立ヲ採用セザル

トモアルベシ

第七條 取引期日ニ至リテハ午後第何時限り賣主ハ銘柄藏所付又買主ハ代價ノ全部又ハ何部チ會所ニ差出スベキ事

但シ本條部金ハ本場立テ留リヨリ前ニ繰戻シ何ヶ月ノ本場直段チ合セ之チ平均シテ其代價ノ計算チ立ツヘシ

第八條 受渡米ハ賣買主並ニ掛リ役員立合ノ上之チ検査シテ故障無キキハ立合封印チ爲シ其藏出證書チ買方へ又其何部代金チ賣方ニ相渡スヘキ事

但受渡中非常天災ノ損毛又藏敷等ハ兩持トナシ又何日以外ハ買方ニ於テ之チ負擔スヘシ

第九條 買方二名以上ニシテ賣渡米各種ナルキハ其銘柄チ鬮引ニシテ受取ベシ若又大石數ナレバ鬮引チ以テ藏出ノ順序チ定置キ雨天ノ外日々早朝ヨリ受渡チ爲ス可キ事

但シ受渡ノ節ハ會所附属ノ小揚チ立合セ枿廻シ引枿等都テ市中ノ通例ニ依テ取扱

ハシムヘシ

第十條 代米ノ受渡ハ都テ會所ニ於テ定メタル格附ニ從フヘシ又受渡ノ藏所ハ會所附属ノ外某地一圓其他何橋ヨリ何川迄枝川ハ何川岸通り何町以内ノ藏々チ相用可キ事
第十一條 受渡米検査ノ場合ニ於テ若シ不足アレバ之チ補ハシメタル上米何石ニ付金何圓ノ割合チ以テ不足セシ俵數ノ過怠金チ出サシメ買方ニ相渡スヘキ事

第十二條 不熟風災腐化等ノ惡米其他渡方ニナラザル程ノ米症ナル時ノ代米ハ都テ何月限り差出ス可シ若シ之チ怠ル時ハ何石ニ付何圓宛ノ過怠金チ差出サシメ之チ買方へ渡スヘキ事

第十三條 銘柄違並ニ藏所違ハ米何石ニ付金何圓宛ノ過怠金チ買方ニ渡サシムベキ事

第十四條 賣買主ニ於テ若シ定規ノ證據金チ怠リ又ハ銘柄藏附及ヒ何部金等チ定刻ニ差出サズシテ違約人トナリタル時賣方ノ違約ナレバ買方ニ於テ其石商チ市場ニ買求メ又買方ノ違約ナレバ賣方ニ於テ之チ市場ニ賣拂ヒ其不足金並ニソレカ爲メ蒙リタ

ル損失ヲ合セ其者ノ証據金身元金ヲ以テ之ヲ償ハシメ尙相手方ヲ満足セシムル能ハ
ザル時ハ公裁ヲ仰クベキ事

第十五條 前條ノ處分ニ及フモノハ直チニ之ヲ除名シ若其身元金アルキハ之ヲ沒收ス
ヘキ事

第十六條 會所ノ手数料ハ賣買米何石ニ付當分左ノ通相定メ又仲買口錢ハ其頼人トノ
示談ニ任スヘシト雖モ凡手数料何分ノ割ニ除ユ可カラサル事

定期取引手数料何拾錢

現場取引手数料何錢

第十七條 毎日營業ノ時間ハ午前第何時ヨリ何時迄ヲ本場立會ト定メ午後第何時ヨリ
何時迄ニ番商ヒテ執行致スヘキ事

但シ金方出納ノ爲メ延縮スルハ此限ニアラザル可シ

第十八條 御國祭其他毎月何ノ日休業タルヘキ事

但シ休業日ノ出納ハ次ノ立會定刻何時限リタルベシ

第十九條 此申合規則ニ於テ實際上若シ不都合有之節ハ肝煎ノ衆議ヲ以テ之ヲ補除改正
シ其都度官ノ許可ヲ得テ施行スヘキ事

右取極メタル申合規則ハ會所營業上何レモ確守スヘキ證據トシテ株主并ニ仲買一同
記名調印スヘキモノナリ

年號月日

株主姓名印
仲買姓名印

第五號 開業免狀ノ雛形

開業免狀

何々米商會所

右差出シタル創立證書ニ據リ此會所ハ明治何年何月太政官第何號布告米商會所條例ノ
旨趣ヲ遵奉履行スベキコト分明ナルニ付今此開業免狀ヲ下付シ自今其業ヲ營ムコトヲ許可
スルモノ也

切 押

年 號 月 日

內 務 卿

朱印

第六號 實際報告ノ書例

明治一年一月實際報告

何々米商會所

合計	以下至	二日	一日	現場取 引米	平均壹 石代	本月限 何月限	平均壹 石代	二月限 一月限	平均壹 石代	三月限 一月限	平均壹 石代	總計米
〇〇〇〇〇〇〇 百十廿千百十石		休業	〇〇〇〇〇〇〇 十廿千百十石	〇〇〇〇〇〇〇 十廿千百十石	〇〇〇〇〇〇〇 十廿千百十石	〇〇〇〇〇〇〇 十廿千百十石	〇〇〇〇〇〇〇 十廿千百十石	〇〇〇〇〇〇〇 十廿千百十石	〇〇〇〇〇〇〇 十廿千百十石	〇〇〇〇〇〇〇 十廿千百十石	〇〇〇〇〇〇〇 十廿千百十石	〇〇〇〇〇〇〇 百十廿千百十石

右違算無之候事

頭取姓名印

第七號 計算表書例
明治一年前
後半季計算表

檢査掛
支配人姓名印

何々米商會所

總計	何々	株備金 ヨリ繰替金	物品賣拂代	沒收金	過怠金	利息金	手数料	入 額	出 額	干 干
々	々	々	々	々	々	々	々	干	税	若
々	何	繰替金拂入高	建築修繕或ハ地料	社費	不時賞與	役員俵金	金	若	金	若
々	々	々	々	々	々	々	干	干		

差引

純正金若干

金若干 株主へ配當スベキ分 但一株ニ付
 金若干 積立準備へ組入ル可キ分
 金何圓何錢

別途計算

資本株金若干	積立準備金若干
現金若干 公債證書々々	金若干 現金若干 公債證書々々
地方廳或ハ銀行へ 預ケ高	銀行其他へ預ケ高
建築費其他繰替高	公債証書或ハ不動産
金々々 々々	金々々 々々
櫃中現在高	櫃中現在高
身元金若干	商會所々有物
金若干	地所若干坪
公債證書	物々々
現金	建

右之通違算無之候事

年號月日

第八號 株主仲買人姓名表報告ノ書例

株主仲買人姓名表

頭取 姓名印
 檢査掛 姓名印
 出納掛 々々

何々米商會所

株數	屬籍	住所	姓名
一株 此金一圓	使府藩 華士族平民	使府藩 第一區小區町 番地居住 寄留	何誰
合株數 此金一萬圓			
身元金一圓			
合金何千圓			
總計株主 幾人			
總計仲買 幾人			

右之通相違無之候事

年號月日

頭取 姓名 印
肝煎 姓名 印

第九號 役員上任報告ノ書例

何々米商會所役員印鑑御届

年號 年 月 何 誰儀ハ當商會所ノ 頭取副頭取肝 煎又ハ支配人 撰ハレ其

印鑑ハ別紙ノ通ニ候也

何々米商會所

年號月日

頭取 姓名 印

(別紙)

用紙厚紙豎五寸幅一寸五分

大(乙第七十號)

府 縣

本年乙第四拾六号ヲ以租稅歲入皆濟帳ハ酒類稅編入ノ年度更正ノ儀相違候就ヲハ租稅收入第五葉計算表中該稅決算以前ニテ第七區比較ノ過不及掲記難致ニ付八年分第五葉計算表ハ第四葉計算表ニ準シ差出シ決算ノ上更ニ決算表(第五葉計算表)ヲ取調十月三十一日限該應出發租稅察へ可差出此旨相違候事

明治九年八月十五日

大藏卿大隈重信

大(乙第七十一號)

府 縣

昨八年三月第三拾六號及同八月第百四拾貳號ヲ以公達相成候内租稅收入計算表第二三四葉表ハ當九年分以降差出ニ不及候就ヲハ第一葉表ヲ某年租稅豫算表第五葉ヲ某年租

稅決算表ト改メ豫算表ハ從前定期ノ通決算表ハ十月三十一日限該廳出發租稅寮へ可差
出此旨相達候事

但租稅增減内譯明細簿及前年未納副表ハ從前ノ毎三月ニ取調可差出事
明治九年八月十五日
大藏卿大隈重信

〔甲第三十二號〕

今般詮議ノ次第有之京都司藥場相廢シ更ニ横濱長崎二港へ司藥場設置候條此旨布達候
事 但開場ノ儀ハ追テ布達可致事
明治九年八月十二日
内務卿大久保利通

〔甲第三三號〕

盜難訴書ニ被盜品目及ヒ品柄等記載方往々蠱漏ノ虞有之取調上差支候ニ付以來可成明
悉ニ記載シ正副二通可差出尤モ無宛名ニテ綴目又ハ改竄塗抹ノ處へハ必ズ押印可致此
旨布達候事
明治九年八月十五日
大警視川路利良

〔甲第三十壹號〕

明治十年内國勸業博覽會諸規則別冊之通相定候條此旨布達候事

明治九年八月九日
内務卿大久保利通
明治十年内國勸業博覽會規則

第一條 太政官第百貳號ヲ以テ來ル明治十年東京府下上野公園内ニ於テ内國勸業博覽會
開設ノ旨布告相成候ニ付同年三月十五日ヨリ同年七月十五日迄開場スベシ

第二條 出品陳列ノ方法ハ別冊區劃分類ニ拘ラズ使府縣藩ヲ以テ部分シ場所ヲ配與ス
ヘキニ付キ使府藩縣下ノ出品ハ總テ其配與セン場所ニ列スベシ

第三條 機械ノ運轉ヲ示サント欲スル者又ハ自家發明ノ機械ヲ以テ物品ヲ製造シテ其
功能ヲ示サント欲ル者ハ機械館ニ於テスヘシ

第四條 多分ノ火氣ヲ要スルカ又ハ一器ニ付十坪以上ノ場所ヲ要スルモノハ自費ヲ以
テ見苦シカラザル一家ヲ設クベシ

第五條 農具并ニ田圃園囿ヨリ產出スル品類ハ農業館ニ列スベシ禽獸ハ別ニ一區ヲ設ケベシ

第六條 列品ノ場所ハ出品ノ概數ト出品主ヨリ請求スル坪數トヲ酌量シ各館内ニ於テ割與スベシ

第七條 各館内ハ火氣ヲ禁シ出品ヲ看護シ該場ヲ清潔ニスルヲ要ス
但シ機械館内必用ノ火氣ハ此限ニアラズ

第八條 掛リ官吏會場内外ニ晝夜巡查シ勉テ物品ヲ保護スト雖モ萬一盜難火災風震等ニ罹リ及ヒ其他ノ事故ニテ破損フルトモ本局官員其責ニ任セズ

第九條 飾臺飾箱及ヒ右ニ屬スル敷布等ハ出品主ノ自費タルベシ

第十條 各廳ノ出品多數トナルキハ該官員之ヲ取扱フハ勿論ナレドモ纔ニ一二品ニ止マルトキハ本局官員ニテ之ヲ引請クベシ

第十一條 出品主ハ從來各家所用ノ記號ヲ染抜キタル旗ヲ製シ列品所ニ揭示スベシ

但シ敷本ヲ叢植シテ裝飾トナスモ隨意タルベシ

第十二條 出品ニハ必ス英和對譯ノ小札ヲ附クベシ尤札紙ハ豫テ備置キ出品主ニ頒與シ各自和文ヲ以テ品名工名產地及ヒ出品主ノ住所姓名ヲ書記セシメ英文ハ本局官員ニテ記載シ與ウベシ

第十三條 出品ノ總目錄ハ本局ニ於テ和英語ヲ以テ之ヲ印刷發賣スベシ

第十四條 列品ハ閉會迄出場ヲ許サズ因テ賣買約定ヲ爲ス者ハ證書ヲ取替ハセ置キ散會ノ期ニ至リ買主ヘ渡スベシ尤右約定濟ノ物品ヘハ其事由ヲ記シタル小札ヲ附置スベシ

第十五條 花實ノ類ニテ季節アルモノハ規則ノ期限ニ拘ラズ臨機出入スルヲ許ヘシ

第十六條 出品主又ハ代理人ハ明治十年二月二十八日マテニ着京シテ物品陳列方ニ從事スベシ

第十七條 出品ノ運送荷脚キ配列等ハ出品主又ハ代理人之レヲ擔當スベシ

第十八條 第十七條ニ關スル諸費及ヒ出品主又ハ代理人往返滞在ノ費用ハ一切自辨タ

ルヘシ

第十九條 明治十年三月五日ニ至リ各館内ニ於テ割與セシ所ノ地坪ニ餘分アラハ速ニ本局ニ還附スヘシ

第二十條 閉會後三十日間限り出品主又ハ代理人ハ其物品ヲ場外へ搬出スヘシ

第二十一條 出品主又ハ代理人へハ門鑑札一枚ツ、相渡シ置クヘシ但他人へ貸與スヘ

カラス

第二十二條 出品主又ハ代理人ハ諸規則ヲ遵奉シ百事本局官員ノ指揮ヲ受ケ別シテ獲

雜ノ所業アルヘカラス

第二十三條 列品へ賣價ヲ記スルト記セサルトハ出品主ノ自由ニ任スト雖モ成ル可ク

丈之レヲ記載スルヲ要ス

第二十四條 従前内外博覽會又ハ他ノ自由ニテ褒賞ヲ得タル品ニハ必ス褒詞ノ寫シ或

ハ賞牌ノ摸型ヲ附スヘシ

第二十五條 會場ハ毎日午前第八時之ヲ開キ午後第五時之レヲ閉ツヘシ

第二十六條 觀客ノ場中ヨリ入ル者ハ必ス通行札ヲ所持スヘシ尤一名一枚ニ限ルヘシ

但シ滿五歳以下ノ小兒ハ通行札ヲ要セス

第二十七條 通行札ヲ分チテ四種トス

一別段通行札 紅色 代價金七圓 一日曜日通行札 黃色 代價十五錢

二平日通行札 青色 全 七錢 一土曜日通行札 白色 全 三錢

第二十八條 別段通行札ハ一枚ヲ以テ終始會場ニ入ルヲ得但入ル毎ニ必ラス之ヲ門番

ニ示スヘシ自餘三通行札ハ入場ノ節門番之ヲ收入ス

第二十九條 通行札賣捌所ハ便宜ノ地ニ於テ數ヶ所取設クヘシ

第三十條 通行札ヲ所持スル者ト雖モ狂疾或ハ酣醉者ト見受タルトキハ入場ヲ許サス

或ハ會場ヨリ立去ラシムヘシ

第三十一條 總テ出品主ノ承諾ヲ得ルニアラサレバ擅ニ物品ニ觸ル、ヲ許サス

第三十二條 場中ヲ寫眞スルヲ許サズ又出品主ノ承諾ヲ經スシテ列品ヲ摸寫スルヲ許

サズ

明治十年内國勸業博覽會出品規則

第一條 内國所産ノ物品ハ天造人工ヲ論セズ總テ之ヲ差出ス可キヲ得

但シ危險汚穢醜態等ノ物品ハ之ヲ禁ス

第二條 外國輸入ノ物品ハ一切人民ヨリ差出ヲ許サズ或ハ彼我比較ノ見本共ナル可キ

物品ハ官ニ於テ之ヲ排列スヘシ但内國ニ於テ外國品ヲ摸造セシ者ハ此限ニアラス

第三條 自家發明ノ物品ニハ必其原由製法ノ記録ヲ附スヘシ又新コ見出シタル礦物藥

種類コノ分析ヲ經タルモノハ其表ヲ附スヘシ

第四條 現在施行ノ事業ヲ擴張シ又ハ未發ノ事業ヲ新興シ或ハ一時廢業ニ属スルモノ

ヲ再興セント謀ル等ノ意見アルモノハ其法ト費額トヲ詳細ニ記録シテ差出スヘシ

第五條 出品目錄ハ各類ニ分テ追テ頒布スル雛形ニ照準シテ三通ヲ製シ本貫又ハ寄留

ノ管轄廳ヲ經テ本局ニ出スヘシ尤目錄番號ハ現品ト差違之レ無キ様注意スヘシ

第六條 各種ノ物品中專ラ其生素ヲ示スモノアリ又給付彫刻等ヲ示スモノアリ各其生

トスル所ヲ以テ其類ノ目錄ニ編入スヘシ

第七條 一人ニテ數種ノ出品ヲ差出ス者ハ其種類ヲ分テ荷造スヘシ尤彼此組合セテ

一種ノ用ヲナスモノ假令ハ食菓上ノ什物及ヒ文房具等ハ合併スルモ妨ケナシ

第八條 出品陳列ノ爲メ要スル所ノ坪數ハ明治十年一月十五日マテニ本貫又ハ寄留ノ

管轄廳ヲ經テ本局ヘ申出ヘシ 但本館農業館機械館等ヲ區別シテ申出ヘシ

第九條 出品ヲ會場ニ運搬スルハ十年二月二十八日ヲ以テ限リトス倘シ或ハ格別精巧

ノ物品ヲ製出シ又ハ止ムヲ得サル事故アリテ此期ニ後ル、者ハ本貫又ハ寄留ノ管轄

廳ヲ經テ其事由ヲ本局ヘ申出シ別段ノ許可ヲ請フ可シ

第十條 些少ノ品ニテ出品ノ手數ヲ厭フ者ハ本貫又ハ寄留ノ管轄廳ヘ依頼シ或ハ出品

取次所ヘ委托シテ差出ストモ隨意タルヘシ尤後證ノ爲メニ委任狀ヲ渡シ置クヘシ

第十一條 出品取次所ハ東京横濱ノ兩所ヘ設ク可キニ付各地出品者ハ便宜ニ隨ヒ兩所ノ内ヘ當テ差送り置キ本人又ハ代人到着ノ上受取ベシ尤手數料及ヒ藏敷等ハ總テ同所ノ規則ニ從フ可シ 但荷物送狀ハ正副二通ヲ製スベシ

第十二條 植物動物ハ上野公園内勸業寮假出張所ヘ送致ス可シ

但シ預リ中養料ハ本人又ハ代理人ヨリ現物請取ノ節償却スベシ預リ中栽培養ハ十分ニ注意スベシト雖モ若シ枯凋斃死スルトモ預リ人其責ヲ受クベカラズ

明治十年内國勸業博覽會附屬賣物店規則

博覽會ノ場上ニ列シ品物ハ觀客ヲトヒ賣買ノ約束ヲナストモ閉場ノ後ニアラザレバ携テ歸リガマシ故ニ觀客ハ其望ヲ失ヒ品物主ハ入金ノ遲延ヨリ自ラ不都合ノ事情モアルヘキニ付茲ニ賣店ヲ取建ツルコトヲ許シ其店中ニテ場上ニ列シモノト同シ品物ヲ賣ラシメ衆人ノ便利ヲ圖ル因テ其規則ヲ設クル左ノ如シ

第一條 場上ニ列シ品物ト同シ品柄ノモノ數箇アリテ直ニ賣捌ント思フ者ハ博覽會場

外公園内ニテ別ニ一區ノ地ヲ無稅貸與スヘシ

第二條 賣店タリトモ本局官員ノ差圖ヲ受ケ見苦シカラザル様建築スヘシ

第三條 建築其他賣店ニ拘ハル一切ノ入用ハ自費タルヘシ

第四條 賣品ノ代價ヲ詳明ニ記シテ本局官員ノ檢査ヲ受クヘシ

第五條 賣品ノ代價ヲ高低シテ觀客ノ疑心ヲ引起スベカラス必一定ノ代價ヲ以テ賣却スヘシ

第六條 賣店ヲ取建ツト思フ者ハ所用ノ地坪家作等ヲ取調ヘ繪圖ヲ添テ明治十年一月三十一日限り本貫又ハ寄留ノ管轄廳ヲ經テ本局ヘ申出ヘシ

明治十年内國勸業博覽會出品者心得

此博覽會ハ後日諸業ノ益々繁昌センコトヲ謀ルタメ御國內ニ産スル種々ノ出物ヲ一場ニ集メテ其美惡ヲ見分ケ產物ノ位ヲ定ムルモノナレハ農工共其術業日頃ノ煅煉ヲ示シ他人ニ負ヌ様精々骨折テ譽チアラハスヘシ依テ左ノ通り相心得ヘシ

第一條 凡テ此會ニ出サントスル物ハ其品柄ノ精粗多少ニ拘ラス品物ノ大概ヲ帳面ニ書キ記シ扣共貳通往復ノ日數ヲ除キ五十日間ニ取調本貫又ハ寄留ノ管轄廳ヲ經テ本局へ願出許シテ受クヘシ尤モ草木礦石等ニテ平日無用ト思ヒ居タル物モ鑑定者ハ吟味ニヨリテ大ニ用立ク間々コレ有ルコトハ必ス一己ノ意見ヲ以テ取捨ヘカラス

第二條 珍敷品物タリトモ都テカタハノ鳥獸虫魚又ハ古代ノ瓦曲玉書畫等ノ類ハ此會ニ出スヘカラス先ツ出品ノ大概ハ人々必用ノ物ニテ追々繁盛ニ致度キ見込アルモノ又ハ御國內へ賣弘メント思フモノ或ハ外國へ賣捌カントスル物歟其外手際ノ良キ物又ハ考ヘノ巧ナル事ニ較フル等ヲ以テ專一ト爲ヘシ去ナガラ是迄ノ產物ヲ古シトシテ捨置新奇ノ物ヲ求ルコトハアラス殊ニ片田舎ノ村々杯ノ產物ニハ世ノ人ノ相互ニ知ラザル物モ有コトナレハ前文ノ見込アル者ハ是迄在リ來リノ物タリトモナルヘク差出シ後日ノ利徳ヲ計ルヘシ

第三條 出品人ハ成丈ケ後日ノ利益ニ氣ヲ附在リ來リシ品物ノ形等ヲ改メテ人々ノ氣

ニ合フ様ニ拵ヘ又ハ是迄棄リ居タル品物ヲ工夫シテ一際用立様ニシ利益ヲ起ス事肝要ナリサレバ追々ノ利益ヲ見込ニシテ此會場ニテハ一時ノ利徳ヲ思フコトナカレ且後々ノ見込ナキ品物ヲ此度限り仕入テ出スベカラズ

第四條 總テ製造物ハ巧ヲ極メ善ヲ主トシ專ラ人々ノ便利ヲ思ヒテ作り出シ取り分ケ日用ノ品ハ購求ノ都合ニキ様ニ成ヘク下直ニイタスヘシ去リトテ品物ノ拵ハ不親切ニナラヌ様氣ヲ附ヘシ

第五條 後々輸出ノ目論見アリテ新ニ拵ユル物ハ各々自己ノ見込アリテ製造シ其意見ノ高キヲ示スハ勿論ナレトモ繁華ノ土地ヲ離レタル田舎ニ住居スル工人杯ハ度々見込違ニテ流行ニ外レノ人ノ話ヲ解シ違ヘ不都合ナル事モ間々見受ケレハ品物ノ形狀又ハ畫圖ノ摸樣等ヲ相談イタシ度者ハ畫圖ヲ拵ヘ見込書ヲ添ヘ本貫又ハ寄留ノ管轄廳ヲ經テ本局へ申出ヘシ左スレハ意見ノ廉々ハ之ヲ示シ或ハ畫圖離形ヲモ貸渡スヘシ

第六條 出品者數人申合セ總代ヲ出京セシメテ事ヲ取扱ハシムルハ勝手タレトモ各府

縣ノ工人商人集會シテ篤ト品物ヲ實見シ各地ノ有餘ヲ考ヘ他人ノ出品ニツキテ自家ノ發明ヲ補ヒ又ハ交易ノ手掛ヲ得ル等利益少ナカラサレハ成ルヘク本人出京スヘシ
第七條 甲乙申合セ總代ヲ以テ事ヲ取扱ハシムルハ委託人及ヒ引請人連名ニテ出品目錄ヲ差出スヘシ尤他日サシモツレノ起ラサル様互ニ約定書ヲ取置クヘシ

〔置賜縣ヨリ内務省ヘ伺〕 六月六日

本年郵便規則第貳拾條地方管内官民往復郵便各地方官廳ヨリ其管内人民ヘノ指令書云々區戸長ノ役場其他官ニ屬スル事務取扱所ト人民ノ間ニ往復スル公用書狀ノ類其管轄中ヲ限り開封帶封ニテ差出分ハ信書定稅半減ト有之候處右ハ管内公立ノ諸小學校或病院等ト人民トノ往復ノ公用文書モ該條ニ照準可然哉相伺候也

〔指令〕 六月十五日

書面伺ノ趣ハ其學校病院共公立ニシテ帶封開封ニ仕立候物ニ限り郵便規則第貳拾條ニ照準可取扱事但郵便規則ニ關涉ノ條件ハ自今直ニ驛遞寮ヘ照會不苦候事

〔乙〕第七拾二號

沿海府縣

靜岡縣明治八年貢米廻漕船ノ内東京三菱會社雇附同縣下駿州有度郡清水港天野九右衛門所持船日本形四百廿五石積順送丸河船頭安藤庄七乘本年六月廿八日同港ニオイテ荷積同時出帆船ノ内辨天丸大星丸ノ貳艘ハ爲難風志州鳥羽港的矢浦ヘ漂流入船ノ由然ルニ順風丸ノ儀ハ其后行衛不相知旨三菱會社ヨリ届出候條右ノ趣管下浦々ヘ無洩觸示シ自然難破等見聞ノ次第モ候ハ、頗末取調至急租稅寮ヘ届出候儀ト可相心得此旨相達候事

明治九年八月十六日

内務卿大久保利通
大藏卿大隈 重信

〔文部省報告第三十九號〕

明治九年八月十六日發行

第一大學區東京女子師範學校ニ於テ生徒二十名ヲ限リ入學ヲ許ス志願ノ者ハ明治八年文部省第十一號布達ニ照準シ來九月三十日迄ニ同校ヘ申出ヘシ

〔第百拾壹號〕

來ル明治十一年(西曆千八百七十八年)五月一日ヨリ同年十月三十一日マテ六ヶ月間佛蘭西國巴里府ニ於テ萬國大博覽會開設ニ付御國人民望ノ者ハ出品差許候條內務省へ可申出此旨布告候事 但規則等ハ追テ同省ヨリ頒布スキ事

明治九年八月十七日

右大臣岩倉具視

大(甲第十七號)

三重縣管下長原村栗田順藏名前ノ舊公債貳拾五圓証書と印壹八八九番同壹八九〇番同壹八九壹番并矢野川村大江正之助名前ノ舊公債貳拾五圓証書と印壹八八五番壹八八六番壹八八七番壹八八八番都合七葉紛失候旨届出候條以後右種類番記號ノ証書ハ一切取引ヲ爲スヘカラヌ又何人ニ不限所持致シ居候ヲ見聞候者ハ速ニ管轄廳へ訴出管轄廳ヨリハ即當省へ可届出此旨布達候事

明治九年八月十七日

大藏卿大隈重信代理

大藏大輔松方正義

東(乙第四十九號)

區 戶 長

静岡縣士族之儀ハ當府下居住ノ儘戊辰己來一時モ同縣下へ移轉不致寄留罷在候向キモ多人數有之於同縣調査方差支候廉不少掛趣ニテ現今寄留又ハ出稼罷在候者ハ本人及ヒ家族苗字年齡居住地記載之書面來ル十一月三十日迄原籍戶長へ郵送イタシ証書請取候様達方同縣ヨリ依頼有之候條此旨無洩可相達事

明治九年八月十七日

東京府權知事楠本正隆

東(乙第五十號)

區 戶 長

來明治十年徵兵取調之儀左ノケ條之通精々念入不注意無之様迅速着手可致此旨相達候事 明治九年八月十七日 東京府權知事楠本正隆

○一 安政三辰年二月十六日ヨリ 出生之者召募○一身幹尺度ハ四尺九寸ヨリ以上連名簿同(巳)年二月十五日マテ 記載シ以下ハ免役簿へ記載可致事○一連名簿書式ハ參考改訂第十七條ニ照準シ族ハ勿論職業書加へ可申事○一他府縣ヨリ全戶寄留之内適齡之者遺漏無之様取調可申單身寄留ノ者ハ於本貫服役相成候義ニ付譬へ志願タリトモ書上ニ及ハス候事○一他府縣へ

全戸寄留ノ内適齡之者ハ参考改訂第二十七條末文之通ニ付連名簿へ記載不致別帳ニテ可差出事○一適齡之者單身ニテ他府縣へ出稼又ハ旅行寄留ノ者ハ呼戻方當廳ヨリ其ノ管廳へ掛合可申問連名簿へ記載ノ上猶別帳相仕立可差出事○一免役簿ハ貳通り可相仕立尤所用ノ譯紙可下渡間受取ノ者可差出事但一枚十六人之割○一諸學校訓導授業生徒之議本年四月改正參考第二十條ノ通ニ付不審之廉可伺出事○一各區ニ於テ徵兵下檢査之節議官出張爲致候條當十月下旬ヲ以日割并其場所取極可申出事○一連名免役兩名簿トモ徵兵令改訂第六章第十三條ノ通りニ候處各區ヨリ差出方兎角遲延相成夫カ爲メ陸軍省へ送達期日則十二月廿五日迄調査之間合無之不都合ニ候條規則之通十一月三十日限リ必ス可差出事

大(乙)第七十三號

府 縣

金穀等借用証書讓渡ノ儀ニ付當九年第九拾九號公布之趣モ有之候ニ付テハ銀行或ハ爲換方へ預ケ金又ハ諸貸下ケ金ニ對シ取置候抵當品ノ内貸金証書差出候節ハ其借主ニ於

テ承諾ノ証書爲差出候上抵當ニ請取借候儀ト可相心得候此旨相達候事

但從前ヨリ取置候貸金証書ノ分モ本文ノ通り相心得將來不都合無之様可取計候事

明治九年八月十八日

大藏卿大隈重信代理
大藏大輔松方正義

達第六十三號

大審院 各裁判所
裁判所ヲ置カサル各縣

地所建屋書入質調印ノ儀ニ付別紙ノ通御達有之候條爲心得此旨相達候事

明治九年八月十八日

司法卿大木喬任

別紙内務省伺地所建屋書入質調印ノ儀朱書ノ通及指令候條此旨相達候事

明治九年八月三日

太政大臣三條實美

地所并建家書入質ノ儀ニ付伺

地所并建家書入質之儀ニ付別紙之通り山梨縣ヨリ伺出候ニ付勘辨致候處事實不得止場合ニ於テハ書入又ハ質入主ノ親屬アル者ハ其親屬ニテ代印親屬ナキ者ハ請人證人二人以上連印ノ上本人ニ於テ其事由テ證書面へ手署爲致候追テ實印ノ證書ト引換フルト否

ラザルトハ質取主ノ意ニ任セ置候トモ後日其證書ノ効ハ消滅可致筋ニ有之間敷ニ付其
段可及指令ト存候得共右ハ地所建家等ノ證書ノミニ無之公私一般關係ノ儀ニ付一應相
同候條至急御指令ヲ仰候也

明治九年七月七日

内務卿大久保利通代理

内務少輔 林 友幸

太政大臣三條實美殿

朱書 伺之趣本人區戸長役場ニ至リ調印ナシト雖モ自分承知ノ旨ヲ口演セシメ區戸長
其趣ヲ簡略ニ與書中ニ書加ヘシムヘシ然ル上ハ其證書ハ他日書替ヲ要セス實印アル證
書ト同一ノ效アリト看做スヘキ事

明治九年八月三日

地所并建家書入質之儀ニ付伺

地所并建屋書入質證書調理ノ際ニ當リ其地主及ヒ建屋主實印差向不見當又ハ紛失代リ
彫刻中ニテ右證書至急ヲ要スル節ハ其書入質取主承諾ノ上書入質主ノ父兄又ハ請入証

入印ニ代爲致後日自己ノ實印刻成ノ上證書ニ改候歟又ハ書入質取主承諾ノ上ハ其儘据
置候共不苦候哉右ハ即今伺出ノ向モ有之ニ付至急御指揮有之度相伺候也

明治九年四月廿日

山梨縣令藤村紫朗

内務卿大久保利通殿

〔太政官〕 正 誤 九年八月十九日

本年第百五號(本號初葉ニ全文ヲ載ス)布告米商會所條例中

第三條第二節中(第四條ノ定限)ハ(第五條ノ定限)ノ誤

第七條第二節中(第七條第三節)ハ(第八條第三節)ノ誤

第十五條第一節中(第八拾五號布告)ハ(第八拾八號布告)ノ誤

同條同節中(大藏省)ハ(租稅寮)ノ誤ナリ

〔乙第九十五號〕

府 縣 東京府
ヲ 除ク

巡查勤續一ケ年未滿ニシテ解職ノ者ヨリ被服及ヒ属具等還納ノ内其用ニ堪ユベカラザ

ル分ハ賣却致シ代價ハ巡查懲罰金同様各廳へ積置追テ警察費又ハ別途仕拂等ニ難相立
巡查勤務上臨時給與等ノ廉へ支辨可致此旨相達候事
但賣却代價及支出ノ廉々懲罰金一同可届出事

明治九年八月十八日

内務卿大久保利通

府 縣

〔乙第七拾四號〕

新舊銅貨ノ儀收納數廉取纏出納察各出張所遞送假納候向モ有之重量ノ品無益ノ費用モ
可相立ニ付成丈ケ預リ金ニ取計證書ヲ以相納候條可取計此旨相達候事
但預金無之府縣ト雖銅貨多分出來候節ハ處分伺ノ上可取計候事

明治九年八月十九日

大藏卿大隈重信代理
大藏大輔 松方正義

〔東京裁判所檢事局ヨリ司法省へ伺〕

九年四月十日

第一條 凡姦事他人ノ指稱ニ係ルハ論スルヲ勿レト明治七年中本省布達有之候所就中
親屬相姦姦部民妻居喪犯姦ハ私和不問ニ置クノ限ニ非スト嘗テ滋賀縣伺へ御指令有

之〔明治七年司法省日誌第百六十四號ニ見ユ〕然ルトキハ姦部民妻居喪犯姦等ノ罪犯
ハ私和スト雖モ發覺ノ上ハ糾治可然哉

第二條 官吏部民ノ妻ヲ姦スルノ律ハ地方官吏ニ止ル儀ト相心得可申哉又ハ判事檢事
等其裁判區内モ亦部民ト爲シテ論スヘキ哉果シテ然ラハ上等裁判所府縣裁判所區裁
判所ハ各其所部ヲ限ル儀ニ可有之哉相伺候也

〔指令〕 五月四日

第一條 姦事他人ノ指稱ニ係ルハ論スルヲ勿レトハ姦情曖昧惟據ナシ人ノ誣執ニ易
キヲ防スル所以ナリ親屬相姦居喪犯姦ノ類其現場ニ於テ親屬捉獲シ及ヒ自ラ供認
スル如キハ罪ヲ科セサル可カラスト雖モ有夫ノ告ルニ非サレハ論セス
第二條 部民ノ妻ヲ姦スルノ律ハ地方官吏ニ限ル儀ト心得ヘシ

〔名東縣ヨリ司法省へ伺〕

九年四月二十四日

香川縣讚岐國三野郡笠岡村農千秋和平儀明治六年九月十一日兇徒聚衆律ニ依リ懲役十

年處刑相成工役中右和平母ツル同人妻ハルヨリ病狀診察書ヲ添和平宿下ノ儀別紙ノ通願出候旨ヲ以香川縣ヨリ照合有之然ルニツルノ歳七十以上ニアラスハルハ癩疾ト云フニアラサレハ律ニ正條ナキ者ニ候得共一家人兩名トモ病氣ニテ稼業難營時ハ俱ニ凍餓ヲ坐待スル外無之實ニ惻然ノ次第ニ付是等ノ者ハ特別ノ譯ヲ以例第三十六條ニ比擬シ右和平已ニ役過スル月日ヲ扣除シ餘罪ヲ收贖シ放還セシムヘシヤ依テ罰文寫並ツルハル兩名願書病狀診斷書及ヒ香川縣ヨリ書面共(略之)相添此段奉伺候也

〔指令〕 五月六日

醫案未ダ症候ヲ盡サ、ルヨリ尙ホ診驗セシメ官吏調査ノ上到底平愈ノ見込無之ニ於テハ癩疾ト見做シ處分スヘシ

區長 戶長

〔乙第十二號〕

本年六月東京府甲第五十五號布達古着古鐵類渡世ノ者取締規則中兩替屋ハ追テ可相達廉有之當分組合ヲ除ク、有之候處右ハ本年太政官第五十七號布告及ヒ當廳ヨリ乙第四

號ヲ以テ相達候組合取締假規則ヲ遵守候義ト可相心得此旨兩替屋共へ可相達事

明治九年八月廿一日

大警視川路利良

〔甲第八拾貳號〕

府下商法講習所之儀會テ教師トシテ米國人ホウヰツコー氏ヲ雇入レ商法講習之儀往々着手致來候處過般第一大區十小區木挽町へ移轉シ繼テ今般學則ヲ改正シ教授爲致候條有志之者ハ試験ヲ受ケ入學可致此旨布達候事

但教授法并ニ入學手續等ハ講習所ヨリ廣告候筈ニ候事

明治九年八月廿一日

東京府權知事楠本正隆

〔乙第九十四號〕

府 縣

本年五月疫牛處分假條例更正增加之儀相達置候處第九條但書中左之通增加候條此旨相達候事

明治九年八月十七日

內務卿大久保利通

疫牛處分假條例 第九條但書中增加

一疫病ニ斃レ云々 但ノ下ニ撲殺ノ二字ヲ加フ

東京上等裁判所ヨリ司法省ヘ伺

九年四月五日

昨八年達第三拾七號(十月三十日)御達末項ニ右ノ外職業ヲ記スル罪案書式農商ト有ルハ大略云々(中略)假令ハ大工左官云々(中略)若シ無職業ノ者ハ無職業ト記ス可シト有之右ハ平民ノミニ係ル儀ニ可有之哉又ハ華族士族ニ於テモ農商被差許候以上ハ總テ華士族平民一般ニ係ル書式ニ可有之哉此段爲心得相伺候也 追仰本文書式ノ儀ハ專ラ罪案ニ係ル儀ニ候ヘ刑名宣告書其他罪犯ニ係ル文書ニ於テハ此例ニ準シ記載致シ候儀ニ可有之哉此段併セテ相伺候也

〔指令〕 五月三日 華族士族平民一般ニ係ル書式ト心得ヘシ

但追書伺處刑申渡ハ明治五年十月三十日相達候書式ノ通り心得ヘシ其他罪犯ニ係ル文書トハ何等ノ種類ナル哉判然不致ニ付指令致シ難シ

第六百拾貳號

筑摩縣始左ノ通廢合并管轄替被 仰付候條此旨布告候事

明治九年八月廿一日

右大臣岩倉具視

- 一筑摩縣ヲ廢シ飛彈國ヲ岐阜縣ヘ合シ信濃國ノ内ヲ長野縣ヘ合併
- 一熊谷縣管轄武藏國ノ内ヲ埼玉縣ヘ合シ栃木縣管轄上野國山田新田邑樂ノ三郡ヲ熊谷縣ヘ合シ熊谷縣廢テ上野國高崎ニ移シ羣馬縣ト改稱
- 一濱松縣ヲ廢シ静岡縣ヘ合併
- 一若松磐前兩縣ヲ廢シ福島縣ヘ合併磐城國亘理伊具新田ノ三郡ヲ宮城縣ヘ合併
- 一鶴ヶ岡置賜兩縣ヲ廢シ山形縣ヘ合併
- 一敦賀縣ヲ廢シ越前國ノ内七郡ヲ石川縣ヘ合シ同國敦賀郡并若狹國ヲ滋賀縣ヘ合併
- 一鳥取縣ヲ廢シ島根縣ヘ合併
- 一飾磨縣及豐岡縣ヲ廢シ播磨但馬兩國並丹波國多紀郡氷上郡ヲ兵事縣ヘ合シ丹後國並

- 丹波國天田郡ヲ京都府へ合併
- 一三瀨縣ヲ廢シ肥前國ノ内ヲ長崎縣へ合シ筑後國ヲ福岡縣へ合併
- 一福岡縣管轄豐前國宇佐下毛兩郡ヲ大分縣へ合併
- 一宮崎縣ヲ廢シ鹿兒島縣へ合併
- 一香川縣ヲ廢シ愛媛縣へ合併
- 一名東縣ヲ廢シ淡路國ヲ兵庫縣へ阿波國ヲ高知縣へ合併

〔達書甲第六號〕

神官并官國幣社神官

各社神官他府縣へ相越候儀ニ付昨八年當省甲第十五號達書之趣モ候處自今他管内ト雖モ往還五日以内ノ分ハ不及經伺其都度當省并各管廳へ可届出尤一日往返ノ向ハ素ヨリ不及届出候條此旨相達候事

明治九年八月廿一日

教部大輔 穴戸 璣

〔司法省ヨリ太政官へ伺〕

九年二月二十三日

昨明治八年百五十三號御布告ノ儀ニ付同年十一月四日〔別紙略之〕ノ通相伺候所朱書ノ通御沙汰相成承知仕候然レハ御沙汰ノ旨趣ヲ熟考スルニ生存者ノ贈遺ハ雙方ノ約束ヨリ生スル事ニ付相續ト區別之レアルハ無論ナルコ因リ素ヨリ伺ヲモ爲サル所ナレハ當御沙汰ニ於テ更ニ亦疑惑ヲ生スル所ナキナリ然レトモ彼ノ相續シタル戸主ニ於テ所有ノ權ノ有無區別ニ至テハ財產區別ノ方法明備セザレハ到底行レ難キ事ナルベシ本邦未タ其方法備ハラズ特リ戸主ノ法アリテ毎戸ニ戸主ヲ立テ一戸籍中ノ者ハ家族ト稱シ其戸主ノ管轄保護ヲ受ク可ク且其戸籍中ニ屬スル財產ハ皆戸主ノ所有ニ非ザルハナシ故ニ其戸主萬一負債累積シテ身代限ノ處分ニ至ルヤ縱令内實竊カコ財產ヲ分テ隠居シタル父母ノ養育料トシ或ハ子弟ニ別事ヲ爲サシムルモ戸籍ヲ分テ別家ヲ爲サ、ルニ於テハ法律上ニ對シ右ノ譯ヲ以テ戸主ノ財產ニ非ザル事ヲ陳述スル事ヲ得ザル定規ナリ故ニ若シ地方ニ於テ過テ戸主ニ非サル者ニ地券ヲ與フル事アルモ法律上ニ於テハ則チ戸主ノ所有ト看做スルハ當然ノ事ナリトス然ルニ生存者ノ相續シタル戸主ニ限り特ニ

其地所々有ノ權ハ一般讓與ノ式ヲ盡サ、レバ戸主ニ於テ之ヲ得可ラサル事ニテハ差向キ法律上ニ於テ大抵觸之レアルニ付生存者ノ相續ヲ爲シタル者モ死亡者ノ跡相續ヲ爲シタル者同様ノ規則ニ御改正相成候様致度此段相伺候也

〔指令〕 五月十一日

伺ノ趣地券ハ其戸主ト否トヲ論セズ之ヲ授與スル者トス故ニ過テ之ヲ子弟ニ與フルニ非ス地券ヲ得タル隱居若クハ子弟ハ各自其地所ヲ所有スル權ヲ享受スル者ニ設令ヒ其戸主身代限ノ處分ニ至ルモ之レニ及フヲ得サル者トス則八年第百五十三号布告ハ此ノ理由ニ源ツキタル者コソ曾テ法律上ノ抵觸無之儀ト可相心得事

〔大坂府ヨリ内務省へ伺〕 五月二十七日

郵便氣船會社蒸氣猷龍丸 運轉司 英人ムテツマン

同社蒸氣黃龍丸 船長 英人スチーピン

同船機關司 英人トナツド

三菱商會蒸氣扶桑丸 カピテイオン 英人アルレンモール

右四名ノ者昨明治八年七月廿一日兵庫縣下神戸花隈町松尾元助持蒸氣金星丸府下天保山沖合ニ於テ覆没ノ節御國人ト共ニ危險ヲ冒シ人命ヲ救助候儀ニ付同年八月十九日附ヲ以賞與ノ儀御國人同様伺出候處外國人ノ儀ハ外務省ニ於テ處分可有之ニ付同省へ伺出旨御指令有之依テ別紙第壹號寫ノ通外務省へ伺出候處第貳號寫ノ通申越候ニ付テハ右賞與ノ儀更ニ相伺候條至急御指揮被下度候也 (別紙除之)

〔指令〕 六月廿一日

書面ノ趣ハ賞與取計ニ不及候條其府ヨリ御國在留ノ兩國領事へ謝狀差遣賞與爲取計候様可致事

〔兵庫裁判所ヨリ司法省へ伺〕 九年四月二十四日

神戸港在留英國商人「イ、エツチ、ハンタ」ヨリ鹿兒島縣下下町吉田清次郎並高木仁之介へ相係ル銑鐵賣渡代價淹滞ノ事件先般當裁判所へ訴出候ニ付被告人呼出方鹿兒島縣へ

及掛合候處高木仁之介ハ病氣ニ付頭難致趣ヲ以吉田清次郎一人罷出候處原告ニ於テハ仁之介關係ノ廉々親ク取調相受度處同人病氣平癒ノ期モ不相分ニ付テハ當裁判所ヨリ鹿兒島縣へ仁之介住所ニ就キ取調方掛合和成度左スレハ原告モ其筋へ願立同縣へ立越候免許相受ケ仁之介住所ニ至リ取調ノ節立會中度旨願出候右ハ前條ノ如ク事情不得止次第ト存候得同縣ハ未開港場ノ儀ニ付右ノ掛合仕候テ如何可有之候哉且譯官等ノ儀モ不都合ハ無之哉相伺候也

〔指令〕 五月六日

伺ノ趣原告人願ノ通兵庫裁判所ヨリ鹿兒島縣へ仁之介住所ニ就キ取調方掛合ノ儀不相成候事 但民事ニテ本人病氣ナラハ代言人規則ニ從ヒタル代人ヲ出ス可シト 被告人へ達ス可シ

〔乙第九十七號〕

府縣(東京府ヲ除ク)

本年(四月)第五拾六号公布遺失物取扱規則中官ニ没スル物品之儀ハ之ヲ公賣シ其金額

每六ヶ月分(七月ヨリ十二月迄一月ヨリ六月迄)取纏メ明細書相添へ大藏省へ納付可致 此旨相達候事

但第十二條應禁ノ者ハ此限コアラズ且本文ノ通納付候ハ、其段當省へ可届出事

明治九年八月廿四日

内務卿大久保利通

〔甲第八拾七號〕

第六大區三小區深川西平野町へ本府病院第二假分局設置來ル卅日開院同日ヨリ醫員結合内外諸科トモ治療爲致候條此旨布達候事

明治九年八月廿五日

東京府權知事楠本正隆

〔丙東京府ヨリ内務省へ伺〕 六月八日

明治七年御省乙第七拾貳號並本年乙第三拾八號布達社寺上地跡處分御規則中處分致兼候件々左ニ相伺候

第一條 社寺ニ於テ曠昔荒蕪不毛ノ地ヲ田畑ニ墾培シ確証アルモノ或ハ無之モノト雖

凡連綿申傳有之地ヲ他ノ人民ニ於テ永小作又ハ貳拾ケ年以上小作仕來候分該社寺ヨリ開墾ノ原由ヲ以無代價或相當代價ニテ拂下請求致シ小作人ヨリモ舊來耕作仕來候緣故ヲ以相當代價ニテ拂下願出候向モ有之右ハ縱令永小作人有之候共該社寺ニ於テ開墾ノ確証所有スルキハ小作人ヨリノ申立採用セヌシテ七年乙第七拾貳號御布告中第一條ニ照準無代價ニテ該社寺へ下渡シ其餘確証無之ニテ保証人或申傳ノミニテ確証ト認メ候舊記等モ無之分ハ乙第三拾八號御布達第三條ニ照準相當代價ニテ永小作人及貳拾ケ年以上ノ耕作人へ拂下取計可然哉

第二條 社寺ニ於テ荒無不毛ノ地ヲ開墾シ確証有之或無之ト雖モ開墾シタル申傳ノ地ヲ他ノ人民ニ於テ借地シ家屋自築引續居住罷在候分該社寺ヨリ開墾ノ緣故ヲ以無代價或相當代價ニテ拂下ヲ請求シ家屋自築人ヨリモ住居セスト雖モ家屋所有スル緣故ヲ以拂下出願候向モ有之右ハ該社寺ニ於テ開墾ノ確証有之キハ七年乙第七拾貳號御布達第一條ニ照準無代價ニテ該社寺へ下渡シ確証無之申傳ノミノ者ハ本年乙第三拾

八号御布達第一條ニ照準該社寺並神官僧侶及他ノ人民ヲ問ハス家屋所有住居人へ相當代價ヲ以拂下可然哉

第三條 本年乙第三拾八號御布達第三條但書ニ永小作ノ確証無之候共貳拾ケ年以上小作仕來候成跡有之分ハ永小作ニ準スルヲ得ル者トスト有之然處永小作ノ確証無之ニテ貳拾ケ年以上小作仕來候趣ヲ以拂下出願候者有之右ハ該社寺神官僧侶及村吏等ニ於テ實際無相違旨保證イタシ他ニ故障等無之上ハ永小作ト看做シ拂下可然哉

〔指令〕 六月廿七日

第一條第二條假令確証無之トモ氏子檀中村吏等ニ於テ保證致候ハ、該社寺或舊神官僧侶其他開墾主へ無代拂下渡可申右保證人等モ無之全ク無證ニ屬スル者ハ小作人及建家主へ拂下可申事 但一二條開墾主ノ外無謂故障申立候儀無之等ニ付若シ故障有之分ハ事由委詳具狀可伺出事

〔乙 第拾三號〕

貸座敷有之地區長戶長

本年八月乙第第八號ヲ以テ引手茶屋竝規開業不聞届旨相達置候處渡世讓渡ノ義ハ不苦候
條此旨元締渡世筋ノ者へ可相達候事

明治九年八月二十六日

大警視川路利良

〔愛媛縣ヨリ司法省へ伺〕

九年四月十一日

已決未決ノ罪囚重病ニ罹リ獄舎ニ於テ全治無覺束者ハ醫師診察書相添へ掛官員文案ヲ
起シ當縣裁判所ト協議ノ上令參事ノ指令ヲ經テ親戚等へ保管申付來候處右手續中往々
死亡ニ至ル者アリ憫然ノ事ニ付今後已決者ハ勿論未決ノ者ト雖巨輕犯(懲役三年以下)
ト見込者ニ限り醫師診斷書差出候節ハ掛官員檢査ノ上直チニ保管取計其上ニテ當縣裁
判所及令參事へ届出候様致候ヤ不苦哉此段相伺候也

〔指令〕 五月十七日

書面ノ儀ハ令或ハ參事ノ指令ヲ受ケ速ニ可取計事

〔飾磨縣ヨリ司法省へ伺〕

九年四月十四日

改正居喪犯姦律曰父母舅姑ノ喪ニ居リ姦ヲ犯ス者ハ凡姦ヲ以テ論シ夫ノ喪ニ居リ姦ヲ
犯ス者ハ有夫ヲ以テ論スト抑本條ニ凡姦ト稱スル者譬へハ和姦夫アル者ハ各懲役一年
妾ハ一等ヲ減シ其他親屬相姦シ及ヒ家長若クハ部民ノ妻ヲ姦シ及ヒ鷄姦スル者ノ類各
條ノ姦罪ヲ揚擢スルノ辭ニシテ父母舅姑ノ喪ニ居リ姦ヲ犯スト雖各々其本律ヲ以テ
科シ更ニ加等ノ例ヲ用ヒス尋常無夫和姦ノ如キハ喪ニ之ヲ犯スモ猶不問ニ置クヘシト
考へ居候處明治六年本省日誌後第四十九號京都裁判所伺改正居喪犯姦云々ノ御指令ニ
改定律例ニ於テ凡姦ヲ以テ論スルトハ懲役一年ニ處スルヲ云フト有之果シテ御指令ノ
如クナラバ則鷄姦ハ加二等妾姦ハ加一等父祖ノ妾伯叔姑姊妹及ヒ子孫ノ婦ヲ姦スル者
ハ各減二等母ノ姊妹及ヒ兄弟ノ妻ヲ姦スル者ハ各減二等其妾及ヒ家長若クハ部民ノ妻
ヲ姦スル者并ニ減一等有夫ノ婦及ヒ兄弟姊妹ノ女及ヒ前夫ノ女同母異父姊妹ヲ姦スル
ハ並ニ本罪加減ノ限ニ無之獨リ無夫ノ女ニ於ケルヤ超乘シテ輒ク懲役一年ノ重キニ入
リ相姦スル人モ亦同罪ニ至ル蓋シ無夫和姦ノ旨ニ於ケル置テ問ハザル殆ド夫妻交通ス

ルカ如シ疑キニ新例頒布ノ前ニ當リ仍ホ各杖七十而ノ喪ニ居テ犯スモニ等ヲ加ヘ杖九十ニ止ル大ニ今ト同シカラズ其欲ヲ縱ニシテ哀ヲ忘レ人情ニ近カラザルヲ以テ爾ルトスル手本來有罪ノ者之ヲ犯セバ宜ク若干等ヲ加重セザル可カラズ然リ而シテ一等二等ヲ加フル者アリ又減スル者アリ加減セサルモノアリ其權衡參差低昂宜キヲ得サル歟甚疑惑致シ候此段相伺候也

〔指令〕 五月十七日

京都裁判所へ指令ハ處女及ヒ妾等懲役一年ヨリ輕ク及ヒ不問ニ置クノ姦罪モ喪ニ居テ犯ス者ハ懲役一年ニ處スルヲ云フ議ナリ其他親屬相姦等一年ヨリ重キ者ハ各姦罪ノ重ニ依テ論ズ

東京神田區神田五軒町十八番地 弘令社

社主 小笠原美治

編輯 同人

印刷 吉野朝計

明治十二年十月三刊

